

12

ハマ 刀

平凡社
大百科事典

ENCYCLOPÆDIA
HEIBONSHA



大百科事典

12

1985年6月28日 初版発行
1985年印刷

定価は第1巻に表示してあります

編集発行人——下中邦彦

発行所——平凡社

郵便番号 102
東京都千代田区三番町5
振替東京8-29639番
電話[03]265-0451番(代表)
[03]265-0455番(営業)

本文用紙——十条製紙株式会社

見返用紙——日清紡績株式会社

製版・印刷——株式会社東京印書館

株式会社ハナマチック・センター
フォト印刷株式会社

クロス——ダイニツク株式会社

表紙箔押——斎藤商会

製本——株式会社石津製本所

© 株式会社 平凡社 1985 Printed in Japan

①

凡例

見出し語

①—見出し語は、かな見出しを太字のかなで示し、次に漢字または欧文を掲げた。

あいち 愛知〔県〕

アイルランド Ireland

②—かな見出しは、日本語（日本慣用の字音読みによる漢字を含む）はひらがな、外国語（外来語を含む）はカタカナとした。日本語と外国語の合成語は、日本語の部分はひらがな、外国語の部分はカタカナとした。

アルカリせいしょくひん アルカリ性食品

③—日本語のかな表記は現代かなづかいで表した。〈おう〉と〈おお〉、〈じ・ず〉と〈ぢ・づ〉を区別するとともに、〈ち・つ〉が連音により濁音化したものは〈ぢ・づ〉を用いた。

おうちょうもの 王朝物

おおさか 大阪〔府〕

あづまかがみ 吾妻鏡

④—動植物名はカタカナをかな見出しとし、必要に応じて漢字を示し、英名、学名を付記した。

ウシ 牛 domestic cattle: *Bos taurus*

アワ 粟

foxtail millet: *Setaria italica* Beauv.

⑤—元素名、化学物質名、岩石・鉱物名などは、かな見出しはひらがなとし、学術用語により部分的にカタカナ表記とするものは、カタカナ表記の〔 〕内に漢字を示した。

りん リン〔磷〕 phosphorus

かこうがん 花コウ〔崗〕岩 granite

⑥—日本、中国、朝鮮の人名は、原則として姓、名の順とし、生没年は西暦で示した。日本人名は日本年号を〔 〕内に付記した。中国人、朝鮮人以外の外国人名は原語つづりで表記し、かな見出しはファミリーネームで示した。

おだのぶなが 織田信長

1534-82(天文3-天正10)

もうたくとう 毛沢東 Máo Zé dōng

1893-1976

ワシントン George Washington

1732-99

⑦—人名の称号は、原則として割愛した。

⑧—中国、朝鮮の人名、地名は日本語読みとし、漢字のほか、中国のものには拼音を、朝鮮の場合はハングル音をマッキューン=ライシャワー方式で表示したものを付記した。なお、原音および原音の転訛で通用しているものは、これをかな見出しとした。

うんなん 雲南〔省〕 Yún nán shěng

はくとうさん 白頭山 Paektu-san

ナンキン 南京 Nankin: Nán jīng

⑨—外国語を出自とする概念語などには外国語を付記し、英語以外については必要に応じて〔 〕内に何国語であるかを示した。

しょうどう 衝動 impulse: impulsión

きか 帰化

naturalization: Einbürgerung [ドイツ]

⑩—欧米語で語形の似通うものは英語で代表させた。地名で複数の国にまたがるもの（山脈、海などは）、見出し語には英語を掲げ、必要に応じて本文中で各国の呼称を示した。

⑪—人名、地名以外の中国の項目にも、拼音を付記した。

かきょ 科学 Kē jū

⑫—かな見出しがカタカナの外国の自然地名では、山、山脈、峠、川、湖、島、諸島、群島、列島、岬、峰は〔 〕内に示した。

アンデス〔山脈〕 Cordillera de los Andes

コディアク〔島〕 Kodiak Island

コロンビアこうげん コロンビア高原

Columbia Plateau

配列

項目の配列は次の基準に従った。

①—五十音順に配列し、促音、拗音も音順に数え、清音→濁音→半濁音の順とした。

②—同音の項目は、カタカナ→ひらがな→漢字の順とし、促音、拗音など小字となるものは並字の後に置いた。

③—中黒(・)、音引(゛)のあるものは中黒、音引のないものの後に置いた。

④—同音の漢字項目は、第1字目の字面の少ないものから配列した。また、第1字目が同字面のときは、第2字以降の字面の少ないものの順とした。

⑤—同音同字の項目の配列は地名→人名→一般名詞の順に配列した。ただし、地名、人名に関しては次の基準に従った。

⑥—日本地名は、自然地名→歴史地名→行政地名→その他、の順とした。

⑦—外国地名は、国名→自然地名→地方名→行政地名→その他、の順とし、次に所属国名の五十音順とした。

⑧—人名は、架空人名→実在人名の順。

⑨—日本人名は生年順。

⑩—外国人名は、パーソナルネームの欧文アルファベットの順に配列した。同姓同名の場合は生年順。

本文

①—本文の記述は簡明な表現とし、難解な漢語、敬語の使用はなるべく避けた。

②—かなづかいはいくつかの現代かなづかいにより、固有名詞、固有術語、引用文などでは旧かなづかいも用いた。

③—漢字は、〈常用漢字表〉〈人名漢字表〉に掲げられたものは一般にその字体を用い、それ以外は慣用のあるものを除いて正字ないしは通用の字体を用いた。難読の漢字、誤読のおそれのある漢字には振りがなを施した。

④—送りがななく改定送り仮名の付け方によって付し、活用のある語から転じた名詞および複合名詞では、慣用のあるものは送りがなを付けなかった。また、歴史用語などで特有の表記のあるものはそれに従った。

⑤—直送項目は▶▶▶で送り先を示し、参照送りは文中では各語の語頭の左上に・を付し、文末ではとくに参照要望度の強い語句を抜き出し▶▶▶によって示した。

⑥—大項目などで、いくつかの内容に分けて記述する場合は次のような区分をした。大見出し〔 〕でかこむ、中見出し〔 〕でかこむ、小見出し〔 〕でかこむ。

⑦—度量衡の単位はメートル法で示したが、尺貫法、ヤード・ポンド法が慣用されているものはそれによった。

⑧—年代は原則として西暦で表記し、日本年号、中国暦その他を示す必要がある場合は〔 〕内に示した。日本年号は、改元がまたがる場合、月日に関係なく新元号で示した。なお、日本の南北朝時代の年号は南朝、北朝の順で示した。

符号・記号

①—記述記号

〈 〉 書名、曲名、作品名、論文名などをかこむ。

〈 〉 引用文または語句、特定の呼称、語義などをかこむ。

[] 見出し語中の地名の行政単位、自然地名の種類、語の限定などをかこむ。

∴ 2種以上の見出し、新旧両暦、2種以上の参照送り、2種の年号表記、2種以上の振りがなを区切るのに使用。

②—漢字略語

③—国名、地域名については必要に応じて次のような略称を使用した。

亜(アジア)、阿(アフリカ)、米(アメリカ)、英(イギリス)、伊(イタリア)、印(インド)、豪(オーストラリア)、奥(オーストリア)、蘭(オランダ)、加(カナダ)、西(スペイン)、ソ(ソ連)、中(中国)、独(ドイツ)、土(トルコ)、仏(フランス)、普(プロイセン)、墨(メキシコ)、欧(ヨーロッパ)、露(ロシア)

④—国指定の名勝、天然記念物などの略語

名(名勝), 特名(特別名勝), 天(天然記念物), 特天(特別天然記念物), 史(史跡), 特史(特別史跡)

◎図・表

☐ 挿絵, 地図, グラフ, 写真など

■ 年表, 統計表など

外国語のかな表記について

外国語のカタカナ表記の基準は, 下記のとおりである。

①全体として, 現地音を尊重しながらも, 日本語として無理なく発音できるような形に写すことを心がけた。

②エジソン, フルベッキなどのように, すでに慣用形のできているものは, その形を尊重した。

③ヴの文字は用いず, v は特記しないかゝりバ行音で表記した。

④各国語別の具体例については, 第1巻巻頭の〈凡例〉を参照されたい。

記号および略符号

a — アール
A — アンペア
Å — オングストローム
A. D. — 紀元後
atm — 気圧
λ — 比旋光度 (20℃における
ナトリウム D 線に対し)
bar — バール
B. C. — 紀元前
B. P. — 現在 (1950年) 以前
Bq — ベクレル
c — センチ (=10⁻²)
C — ケーロン
°C — セ(氏)温度
cal — カロリー
Cal — 大カロリー
cc — シーシー (=cm³)
cd — カンデラ
CGS — CGS 単位
cm — センチメートル
cm² — 平方センチメートル
cm³ — 立方センチメートル
d — デシ (=10⁻¹)
d¹⁵ — 比重 (15℃における)
d — 右旋性
D — D 形異性体
dB — デシベル
deg — 度 (温度)
dg — デシグラム
dl — デシリットル
dl — ラセミ体
dm — デシメートル
E — 東経
emu — 電磁単位
erg — エルグ
esu — 静電単位
eV — 電子ボルト
F — ファラド
°F — カ(華)氏温度
g — グラム
g — 重力加速度
G — キガ (=10⁹)
Gal — ガル
Gy — グレイ
h — 時またはヘクト (=10²)
H — ヘンリー
ha — ヘクタール
hPa — ヘクトパスカル
Hz — ヘルツ
J — ジュール
k — キロ (=10³)
K — ケルビン
kcal — キロカロリー
kg — キログラム
kgf — キログラム重
km — キロメートル
km² — 平方キロメートル
km³ — 立方キロメートル
kV — キロボルト
kW — キロワット
kWh — キロワット時
l — リットル
l — 左旋性
L — L 形異性体

lm — ルーメン
lx — ルクス
m — メートルまたはミリ (=10⁻³)
M — メガ (=10⁶)
m — メタ
m² — 平方メートル
m³ — 立方メートル
mb — ミリバール
mg — ミリグラム
mGal — ミリガル
min — 分
MKS — MKS 単位
ml — ミリリットル
mm — ミリメートル
mm² — 平方ミリメートル
mm³ — 立方ミリメートル
mmHg — 水銀柱ミリメートル
mol — モル
μ — マイクロ (=10⁻⁶)
μm — マイクロメートル
n — ナノ (=10⁻⁹)
N — 規定または北緯またはニュートン
nm — ナノメートル
ns — ナノ秒
o — オルト
p — ピコ (=10⁻¹²)
p — パラ
Pa — パスカル
pH — 水素イオン濃度指数
ppb — ピービービー (10億分率)
ppm — ピービーエム (100万分率)
rad — ラジアン
rpm — 毎分回転数
s — 秒
S — ジーメンスまたは南緯
sr — ステラジアン
Sv — シーベルト
t — トン
T — テスラまたはテラ (=10¹²)
V — ボルト
W — ワットまたは西経
Wb — ウェーバー
Wh — ワット時
° — 度
' — 分
" — 秒
% — パーセント (百分率)
‰ — パーミル (千分率)

はま 浜

浜という言葉は、日本では、海や湖に沿った比較的平坦な砂礫地を指して使われ、岩礁性の磯浜と砂泥性の砂浜とがある。漁村では、浜は、地引網などの網引場として、あるいは船揚場や網干場として共同で管理されている場合が多い。漁村の家はいついかに作業場がほとんどなく、網の修理や漁具の手入れ、あるいは魚の分配や加工などは、共同の作業場である浜が利用された。砂浜を指すこととしては、ウタ、ナゴ、ヨリアゲ、ユリアゲ、それに関東から東北にかけてスカなどが、古来より使われている。なお、大阪では「河岸」のことを浜とよんだ。

▶▶磯：浦・浜 高桑 守史

ハマー Hamah

シリア西部、オロンテス川岸の同名県の県都。人口17万6640(1981)。ヒッタイト人の定住を起源とする古くからの都市。アレppoとダマスカスの中間に位置し、内陸交通の要衝をなす。イスラム時代に入っても、ハムダーン朝、セルジューク朝など支配者はめまぐるしくかわったが、12～13世紀のアイユーブ朝時代に繁栄をみせ、オロンテス川にかかる揚水車(ノリア)、川の両岸に発展した町並、モスク、城砦などが訪れた旅行者の目をひいた。現在もお綿花、小麦を中心とするシリア中央部の肥沃な農業地帯の中心市場である。また、綿織物業、セメント生産、植物油製造など従来からの工業に加えて、最近、金属・化学工業が設立されている。▶▶ハマト 木村 喜博

パーマー Harold E. Palmer

1877-1949

イギリスの音声学、文法学者、語学教育者。ロンドンに生まれ、ベルギーのリエージュ大学を卒業し、ロンドン大学講師となる。1922年文部省顧問として来日し、英語教授研究所(のちの語学教育研究所)を開いて所長となった。教育、著書、講演を通じて、彼のいわゆる「オーラル・メソッド oral method (口頭教授法)」を説き普及させ、第2次大戦前の日本の英語教育に大きな影響を与えた。それは同時に、戦後アメリカのC. C. フリーズによる「オーラル・アプローチ (口頭接近法)」普及の素地をつくるものであった。オーラル・メソッドは耳と口の訓練を特に重んじたが、一部で誤解されたように、耳と口のみに終始するものではなかった。日本の「神保格論」とも交わり独特の言語理論を開拓し、文法面では「置換表(サブスティテュション)」と称する操作により基本文型を練習させようとした。また英語のイントネーションを研究して独自の分類をし、日本語のローマ字化を論じては、音韻論の開拓に努めた。そのほかに基礎語彙、基礎イディオムに関する研究も重要である。▶▶英語[日本における英語教育] 三宅 鴻

パーマー Samuel Palmer 1805-81

イギリスの画家。ロンドン生れ。少年の時から風景画の才能を示し、初期にはJ. M. W. ターナーの強い影響を受ける。しかし、画家リンネルJohn Linnelを通じ

て1824年にW. ブレークを知ってから、その美術上の継承者として重要な存在となる。ブレークと同様に幼時から神秘的な幻視体験をもち、宗教的な幻想とキリスト教の象徴に満ちた彼の風景画は、イギリス・ロマン派に特異な地位を占めている。

鈴木 杜幾子

ハマアカザ 浜藨

Atriplex subcordata Kitagawa

北日本の海岸の砂地に普通にみられるアカザ科の一年草。本州では日本海側の海岸に多く、朝鮮、東シベリア、サハリン、千島列島にも分布する。茎は高さ40～60cm。外見はシロザに似ているが、葉は厚くやや多肉質である。葉は三角状卵形～三角状長卵形で、縁に欠刻状のふぞろいの鈍鋸歯があることが多い。長さ2～6cm、幅1～2.5cm。花は単性花で雌雄同株。花期は8～10月で、雄性先熟である。雄花と雌花は混生して穂をつくり、雌花は花被をもたず、2枚の向かいあった苞葉に包まれる。苞葉は花後も宿存し、大きくなって扁球形の蒴果を包む。雄花には苞葉はなく、5本のおしべと5枚の花被がある。種子は褐色で扁平、径3～4mm。近似種ホソバナハマアカザ*A. gmelinii* C. A. Meyerは葉が細く、種子は黒色で光沢がある。日本全土の海岸の砂地に普通に生える。

ハマアカザ属 *Atriplex* (英名 orach(e))は世界中の温帯および亜熱帯域に分布し、約200種がある。乾燥地帯や塩性に多い。若芽や葉が食用にされる種が多いが、ヤマホウレンソウ *A. hortensis* L. (英名 mountain spinach, garden orach(e))はヨーロッパで栽培される。C₃植物とC₄植物があり、C₄植物の代謝系の研究材料として注目されている。

矢原 徹一

はまいでそうし 浜出草紙

御伽草子。渋川版の一。源頼朝は大仏供養を行って右大将に任ぜられ、兵衛司など十人、左衛門司十人の官途を賜った。中に左衛門司を賜った梶原景時は、その位を嫡子源太景季に譲り、大名・小名が集い祝宴が催される。初番、二日目ともに酒肴やらみごとな引出物などを調え、三日目には、江の島詣にこよせて、頼朝公の北の方をはじめ大名の北の方も由比ヶ浜に浜出を企て、船の上に舞台を造り、御賀の舞、舞楽など3日にわたり舞い奏で、所領を賜った人々はめでたく所知入りをする。浜出とは、海浜で潮干狩をしたり飲食をしたりする春の行事。「浜降り、浜遊び」ともいう。冒頭に、鎌倉の地勢、名所尽しをのべる。幸若舞曲《浜出》を草子化したもので、祝言色の濃い作である。

徳江 元正

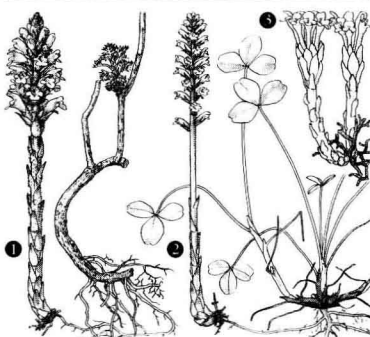
ハマウツボ 浜藨

Orobanche coerulescens Steph.

海岸や川原に生えるヨモギ属の根に寄生するハマウツボ科の一年草。茎は黄褐色で太く、高さ10～25cm、鱗片葉がまばらにつく。葉は狭卵形または披針形で膜質、長さ1～1.5cm。5～7月、直立する茎の上部に穂状花序をつくり、淡紫色の花を密につける。唇形花冠は長さ約2cm、

【ハマアカザ】

左一苞葉に包まれた果実。



【ハマウツボ】 ①—ハマウツボ ②—ヤセウツボ ③—キヨスミウツボ

筒形で先は5裂し、唇形となる。おしべは4本、2本ずつ長さが異なる。子房は1室で、多数の胚珠をもつ。果実は狭楕円形の蒴果で、長さ約1cm、2裂して多少の微小な種子をだす。北海道～琉球、朝鮮、中国、シベリア、ヨーロッパ東部に分布する。ヤセウツボ *O. minor* Sutton (英名 lesser broomrape)は全体に短い腺毛が生え、花は淡黄色である。ヨーロッパ原産で、関東や近畿の都市付近の草地に帰化している。おもにシロツメクサ属に寄生するが、キク科やセリ科にも寄生する。

ハマウツボ科 *Orobanchaceae* は北半球の温帯～亜熱帯に分布し、14属180種ほどあり、すべて寄生植物である。ゴマノハグサ科に近縁であるが、子房は1室で4個の胎座に多数の小さな胚珠がつく。日本には4属7種が知られ、ハマウツボ属3種、ナニバンギセル属2種、キヨスミウツボ属1種、オニク属1種がある。

キヨスミウツボ(清澄藨) *Phacellanthus tubiflorus* Sieb. et Zucc. は、カシ類やアジサイ類などの木の根に寄生し、山地の木陰に生えるハマウツボ科の多年草。高さ5～10cm。全体肉質で白色。葉は卵形で鱗片状。5～7月に開花。花は十数枚集まった苞葉の腋ごとに1個ついて束生し、白色で長さ2.5～3cm。北海道～九州、朝鮮、中国の中部・北部、ウスリー、サハリンに分布。和名は千葉県の清澄山で

採集されたことによる。また開花後黄色になるので、オウトウカ(黄筒花)の名もある。

山崎 敬

ハマエンドウ▶▶レンリソウ

はまおあらた 浜尾新

1849-1925(嘉永2-大正14)

明治・大正期の教育行政家。東京帝国大学の総長としても著名である。但馬(兵庫県)豊岡藩士の家に生まれ、明治維新前に京坂、江戸で英学・仏学を学ぶ。1872年(明治5)文部省に出仕、大学南校(東京大学の前身)の中舎監を務めた。73-74年アメリカに留学、帰国後東京開成学校校長心得を経て、77年東京大学成立後は法・理・文3学部の総理補として同郷の総理加藤弘之を助けた。80年、文部省に転じ、官立学務局長、専門学務局長等を歴任し、東京職工学校(東京工業大学の前身)、帝国大学農科大学(農学部)の設置等に貢献した。この間85年に文部省から学術制度調査のためヨーロッパに派遣されている。93年帝国大学総長となり講座制の創始に参画、97年から1ヵ年文部大臣を務めた。東京帝大と文部省の抗争事件(戸水事件)収拾のため1905年再び東京帝国大学総長に迎えられ、12年まで在任した。このほか、1889年元老院議員、90年貴族院議員に選任され、晩年は東京御学問所副総裁、枢密院議長などを歴任した。温厚な人柄で広く知られた。

寺崎 昌男

はまおか 浜岡[町]

静岡県南部、小笠原の町。人口1万9859(1980)。北部は「牧」原台地南端にあたり、新野⁶、朝比奈、比木などの集落が点在し、茶の産地になっている。遠州灘に臨む南部は浜岡砂丘が広がり、池新田と佐倉の2集落が国道150号線に沿って発達する。主集落の池新田は中世末期より新野池を干拓し、開発された新田である。農業人口の減少や兼業化が進むなかで農業は都市近郊型へと移行し、茶や畜産とともに、温暖な気候と砂地を生かしたイチゴ、スイカなどの施設園芸が行われる。食品加工や繊維工業が立地するほか、電機や輸送機械工場も誘致されている。ねむの木学園、中部電力浜岡原子力発電所などがある。佐倉北部の池宮神社境内の桜ヶ池周辺は桜の名所として知られ、また、秋の彼岸の日には納櫃⁸祭が行われる。

萩原 毅

ハマオモト▶▶ハマユウ

はまおり 浜降り

海浜や河辺に行くと「みそぎ」をすることをいう。水には一般にいっさいの罪や穢⁹を洗い流す浄化力があると考えられ、とくに塩を含有した潮水は強い浄化力をもつとされた。祭りや神事を前に神官などの祭りの奉仕者が浜降りをしたり、潮水で家の周囲や神棚を清める風習は各地にみられる。宮崎県などでは、祭りの朝にくはまくだり⁷とて、海に行くと潮水をくんで家の内外にまいたり、海で拾った石を神社に納めて拝むという。また

毎月1日、15日などに潮花¹⁰汲みとかくおしおい¹¹とて潮水をくんで神棚などを清める風もあり、浜降りの略化された形とみられている。奄美や沖縄地方などでは、一年で最も潮のひくい旧暦3月3日に「浜降り」として海や磯に行き一日中遊ぶ風習がある。一方、神輿自体が海浜に御幸する浜降神事や浜出¹²神事も海上安全、豊漁祈願のために各地で行われているが、とくに関東地方の海岸部で盛んである。これは一種の神のみそぎと考えられ、なかには神輿洗いや海中渡御の例もある。神奈川県寒川神社の浜降祭(7月15日)や千葉県安房神社の浜降神事(8月10日)などは、とくに有名である。

▶▶磯遊び

宇野 正人

はまかたきろく 浜方記録

原題は《御触書之留並浜方記録》。1716-1843年(享保1-天保14)の*堂島米市場に関する幕府法令その他の記録。江戸時代、堂島米仲買であった室谷家(播磨屋)に伝わる古記録から7代賀登が重要記事を編年に抄録、8代賀世が書き継いだもの。1801年(享和1)ごろの起筆。9巻。領主米の最大の取引市場であった堂島の歴史的動向と幕府の米穀流通政策を知りうる史料。《近世社会経済叢書》所収。

鶴岡 実枝子

ハマキガ 葉巻蛾 bell moth

鱗翅目ハマキガ科 Tortricidae の昆虫の総称。小型から中型のガで、翅は細長く、前翅頂は鋭くとがることが多い。後翅は一般に台形で、斑紋をもたない。*ピロードハマキのように開張5cmを超える美麗種もいるが、一般に開張2cm内外で、じみな色彩のものが多い。全世界に分布し、日本には500種以上が知られている。ごく一部は昼飛行だが、大部分が夜行性で、よく灯火に飛来する。英名は翅をたたんで静止する姿が鐘を連想させる種が多いことによる。幼虫は円筒形で、ほとんど斑紋がない。葉を巻いたり、つづり合わせて中から葉を食べる種が多いのでハマキガという名が使われているが、新梢¹³、果実、種子内に侵入する種や茎や根に穴をあける種もある。この科に属するおもな害虫は次のとおりである。マツアトハマキ(マツ、モミ、スギなど針葉樹)、ホソアトハマキ(リンゴ、ナシの葉)、タテスジハマキ(針葉樹)、ミダレカクモンハマキ(バラ、ブナ、ヤナギなどの新芽や新葉)、カラマツイトヒキハマキ(カラマツ)、リンゴノコカクモンハマキ(リンゴ、ナシなどの葉)、チャノコカクモンハマキ(チャの樹)、カンシャシクイ(サトウキビ)、リンゴハイイロヒメハマキ(リンゴなどバラ科)、カラマツヒメハマキ(カラマツ)、マツトビヒメハマキ(マツ類の新梢)、マツアカシムシ(クロマツ)、アシトビヒメハマキ(マメ科)、マメサヤヒメハマキ(マメ科)、ナシヒメシクイ(果樹)、クリミガ(クリの実)。

井上 寛

ハマギギ Tachysurus maculatus

ナマズ目ハマギギ科の海産魚。南日本、東南アジアからインド洋にかけて分布し、沿岸の水底にすむ。全長40cm前後。前

鼻孔と後鼻孔とが近接し、鼻孔の部分にはひげがなく、下あごに4本のひげがある。尾びれの後縁は上下に深く二又し、背びれと左右の胸びれにはそれぞれ1本ずつの棘¹⁴がある。あぶらびれをもつ。鰓膜¹⁵は峡部と癒合している。うろこがない。日本近海には近縁の別種オオサカハマギギ *T. thalassinus* を産するが、両種ともまれに漁獲される程度で、生態についてはほとんど明らかにされていない。 中村 守純

ハマギク 浜菊

Chrysanthemum nipponicum Matsum.

海岸の崖や砂丘に生えるキク科の多年草で、茎が木化して越冬する。本州の太平洋岸を青森県〜茨城県に分布する日本の固有種。茎はまばらに分枝して斜上し、100cmに達する。葉は肉質で、表面に光沢がある。花期は9〜11月。頭花は大きく、開花直径約6cm、雌性と両性の多数の小花からなる。雌花は縁に1列あって、花冠は舌状で白色。両性花は中央に多数あって、花冠は筒状で黄色。雌花の瘦果¹⁶は鈍三角柱、両性花の瘦果は円柱形で10肋があり、ともに頂端部に小冠¹⁷がある。瘦果は水につけても粘化しない。亜低木であること、果実に小冠が発達することなどにより、キク属から独立させてハマギク属 *Nipponanthemum* とする見解が最近提案されている。以下に、近縁種について述べる。

①コハマギク *C. yezoense* Mack. 海岸の岩上に生える多年草で、北海道根室から太平洋岸に沿って本州茨城県まで分布する。茎は草質で、地上部は1年で枯れる。花期は9〜10月。瘦果には5本の条があり、水に浸すとふくれて粘る。

②イソギク *C. pacificum* Nakai 海岸の崖に生える多年草。茎は曲がって斜上し、高さ30〜60cmで、上部まで密に葉を互生する。葉は厚く、表面は緑色、縁は白色、裏面はT字状毛が密生して銀白色。花期は10〜11月。多数の頭花を散房状につける。頭花は雌性と両性の小花からなる。雌花の花冠は普通、先が3〜4歯ある黄色の筒状花であるが、ときに白色の舌状花がある。両性花は先が5歯ある黄色の筒状花である。千葉県犬吠埼から静岡県御前崎まで分布する。

③ノジギク *C. japonense* Nakai 海岸近くの崖に生える多年草。茎は基部が倒れ、上部が斜上し、よく分枝する。葉の表面は毛を散生して緑色、裏面はT字状毛を密生して灰白色。花期は10〜12月。多数の頭花をやや散房状につける。頭花は開花直径3〜4.5cm。雌性と両性の小花からなり、雌花は舌状花で白色、後に淡紅色となる。両性花は筒状花で黄色。瘦果はやや円柱形で、5肋ある。本州(近畿地方以西)、四国、九州に分布する。

④リュウノウギク *C. makinoi* Matsum. et Nakai 日当りのよい山地の崖や林縁に生える多年草。本州(福島県・新潟県以西)、四国、九州(宮崎県)に分布する。茎はまばらに分枝し、高さ40〜80cm。葉の表面は短毛があって緑色、裏面はT字状毛が密生して灰白色。花期は10〜11月。和

名は、茎や葉に揮発性の油が含まれ、その香りがリュウノウ(竜腦)に似ることによる。

⑤イワギク *C. zawadskii* Herbieh 東アジアからシベリアを経てヨーロッパ東部にかけて分布し、日本では北海道から九州まで飛石状に見られる。北海道では海岸の岩場に、本州では加賀白山や大台ヶ原山など、四国では寒風山など、九州では白岩山などの岩場に生える。花期は7~10月。頭花は開花直径3~6cm。舌状花冠は白色。

⑥シマカンギク *C. indicum* L. 日当りのよい山麓に生える多年草。茎の下部は倒れて地につくが、上部は直立し、高さ40~80cm。葉は洋紙質で、表面は微毛があって緑色、裏面はT字状毛があって淡緑色。花期は10~12月。頭花の開花直径は2.5cm内外。舌状花冠は黄色、まれに白色。本州(近畿地方以西)、四国、九州、朝鮮、中国に分布する。

栽培のキクは多年草であるが、野生のものはない。1500年以前に中国でチョウセンノギク *C. zawadskii* var. *latilobum* (Maxim.) Kitam. とシマカンギクとの交配したものから改良された園芸植物と考えられている。

小山博滋
[薬用] シマカンギクの頭状花を菊花⁶という。モノテルペン(香氣成分)、フラボノイド、コリン、糖類を含む。他の生薬と配合して、頭痛、感冒、発熱、悪寒などに解熱鎮痛薬として用いられるほかに、血圧降下作用があり、高コレステロール症に応用される。茶剤は暑気払いや咽喉の渇きに飲料となる。

新田 あや

はまきた 浜北[市]

静岡県南西部、浜松市の北にある市。1956年浜名町と北浜村はか3村が合体して浜北町となり、63年市制。人口7万2472(1980)。市域は天竜川の西岸に位置し、同川のはんらん原と沖積地、三方原台地からなる。遠州鉄道と国道152号線が南北に通る。沿線の貴布禰⁶と小松が中心集落。また北部に国鉄二俣線と国道362号線が東西に走っている。貴布禰は古くから遠州織物の取引の中心地として栄え、1925年には日清紡績が立地したほか、周辺の農村部には現在でも織物工場がみられる。しかし現在の工業の中心は市の製造品出荷額の6割を占める輸送機械で、ヤマハ発動機浜北工場(オートバイ)をはじめ関連の中小部品工場が多い。農業は水稲のほかマキ、松などの植木生産が盛んである。またミカン、次郎柿などの果樹栽培や、養豚・養鶏農家も多い。近年の住宅地化の進行により、浜松市への通勤人口が増加し、ベッドタウン化が進んでいる。市の北部に桜の名所として知られる岩水寺⁶があり、付近の採石場からは浜北人と名付けられた化石人骨が発見された。

堀川 亮

はまきたじん 浜北人

1960~62年に、静岡県浜北市根堅岩水寺採石場における根堅洞窟内の堆積から、鈴木尚、高井冬二、長谷川善和らにより発見された化石人骨。人骨は、上層から

脳頭蓋、頬骨、下顎智歯、鎖骨、上腕骨、尺骨、腸骨の骨片、下層から脛骨片が出土している。上層骨群は、同一個体で、20歳代の女性と推定されるが、下層骨の年齢、性別は不明である。人骨の時代は、いずれも更新(洪積)世後期と推定されている。66年の鈴木⁶の報告によれば、浜北人は、脳頭蓋や上腕骨の形態から*新人に属するという。頭型は短頭で、四肢骨の長さは短い、比較的頑丈である。身長は著しい低身で、成人女性の推定値が143cmである。*縄文人と類似した形質をもっており、その祖型と推測されている。

内藤 芳篤

はまぐちおさち 浜口雄幸

1870-1931(明治3-昭和6)

政治家。土佐の水口⁶家に生まれ、同郷の浜口家の養子となった。第三高等学校をへて、1895年東京帝国大学政治学科を卒業。ただちに大蔵省に入り、山形県収税長、松山、熊本の各税務管理局長、東京税務監督局長などを歴任。1904年以降は煙草専売局に勤務し、07年専売局長官になった。この間に後藤新平の知遇をえ、12年第3次桂太郎内閣の後藤通相のもとで通信次官に就任した。14年第2次大隈重信内閣の大蔵次官となり、立憲同志会に参加、15年第12回総選挙に高知市から立候補して当選し、以来6回連続当選した。24年加藤高明内閣の蔵相となって税制整理にあたり、ついで第1次若槻礼次郎内閣の蔵相、のち内相を務めた。27年立憲民政党の結成とともに総裁に就任し、28年第1回普通選挙では与党政友会に伯仲する議席を確保して、田中義一内閣を窮地に立たせた。29年7月田中内閣総辞職のあとをうけて民政党内閣を組織し、その容貌から〈ライオン首相〉とあだ名され、重厚・清廉な人柄で人気を集めた。蔵相には井上準之助をあてて緊縮政策を推進し、30年1月金解禁を行った。一方、外相に幣原喜重郎を起用して協調外交を展開、日中関係の改善をはかるとともに、イギリスの提唱に応じてロンドン海軍軍縮会議に参加し、若槻元首相、財部彪海相らを全権として派遣、財部不在のあいだ海相事務管理の職につき、軍部大臣武官制の例外をつくった。日米妥協案に対する加藤寛治軍令部長らの強硬な反対を抑え、元老西園寺公望の支持と30年2月の総選挙でえた絶対多数の力を背景として、4月ロンドン海軍軍縮条約に調印、統帥権干犯を叫ぶ政友会や右翼の攻撃に屈せず、条約否認の構えをみせた枢密院にも断固たる態度で臨み、10月条約を批准させ、戦前政党政治の一頂点を築いた。しかし、これに不満をもった愛国社員佐郷屋留雄⁶に11月14日東京駅で狙撃されて重傷を負い、31年4月総辞職、8月26日死去した。

江口 圭一

ハマグリ 蛤 *Meretrix lusoria*

マルスダレガイ科の二枚貝。ハマグリの名は全体が黒褐色をした個体をクリにたとえて浜栗といったという説がある。しかし、小石のことをグリというので砂中に潜っているのを小石にたとえてハマグ

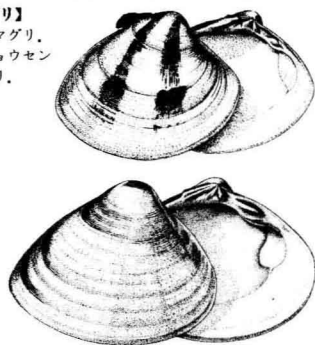


【ハマギク】

- ①—ハマギク ②—リュウノウギク ③—ノジギク
④—シマカンギク ⑤—イソギク ⑥—コハマギク
⑦—イワギク

【ハマグリ】

上—ハマグリ。
下—チョウセン
ハマグリ。



リとしたというのが正しいようである。殻の長さ8cm、高さ6.5cm、膨らみ3.5cmに達する。丸みのある三角形で殻頂はやや前方に寄り、腹縁はゆるやかに丸く湾曲する。殻表は平滑で光沢があり、成長脈は弱い。殻表の模様は個体によって変異が大きく、黄色の地に殻頂から太い2本の黒褐色の放射帯のある型、多くの細い放射帯のある型、全面に小さい斑点のある型、全体が黄白色または栗褐色の型などがある。殻頂の後に黒褐色の肋帯がある。殻の内面は白色。かみ合せには強い歯がある。外套⁶線の後方の湾入は小さく浅い。

北海道南部から九州に分布し、内湾の潮間帯下から水深10mくらいまでの砂泥底にすむ。夏季水温23~27℃で産卵し、幼生は多少塩分の低いところで育ち、しだいに沖へ移る。移動するときにゼラチン状の紐を出して、その浮力によって浮き、それが波にゆられて移動する。この紐のことをハマグリが気を吐いたとして〈蛤の蜃気楼〉という。養殖をするときは移動するので囲いをする。幼貝は1年で2cm、2年で3.5cm、3年で5cmくらいに成長する。

古来食用とされ貝塚から多数の殻が出

土するが、秋から翌春までが味がよく、とくに春がしゅんである。殻のかみ合せは他の殻とは合わないため、貞節、夫婦和合を意味するとして結婚式などの祝事に用いられる。また、殻の内側に金銀泥などで人物草花などを描き、一方の殻を地貝としてならべ、他方の殻を貝蓋として左右両殻を合わせた遊戯の「貝覆い(貝合)」は江戸時代には上流家庭に流行し、その貝殻は豪華な嫁入道具の一つになった。ハマグリは学名の *Meretrix* は遊女の意で、*lucoris* は遊んでいるということで、命名者が貝覆いを遊女の遊びと思ったことによる。

チョウセンハマグリ *M. lamarkii* はハマグリに似ているが、殻は厚く、膨らみは弱い。殻表に放射状の色帯がない。殻の長さ9.5cm、高さ7cm、膨らみ4cmに達する。九十九里浜など外海の砂底に産する。碁の上等な白石はこの殻からつくられるのでゴイシハマグリの別名もある。

また、シナハマグリ *M. petechialis* は朝鮮半島西岸や中国沿岸に分布している。ハマグリに似るが、腹縁はいつそう丸みがある。輸入されており、魚店で売られているハマグリは多くはこの種である。蛤は春の季語である。

波部 忠重

【料理】《日本書紀》景行天皇53年の記事に「白蛤を膾炙して為りて」とあり、この白蛤はハマグリとされるから、ハマグリは《播磨国風土記》に見えるカモの羹とともに、文献上日本最古の料理の素材という位置をしめることになる。現在では「潮汁、酒蒸し、しぐれ煮、すし種」などにひろく用いられるが、《本朝食鑑》(1697)は焼くのがもっともよく、煮食、生食がそれにつぐとしている。また、焼きハマグリは松ぼっくりをたいて焼くのがよいとする。〈その手は桑名の焼蛤〉の語があるほどに、東海道桑名の焼きハマグリは喧伝されたもので、それを松ぼっくりの火で焼いたことは《東海道中膝栗毛》などにも見られる。家庭でつくる場合は、殻のちようつがい包丁で切り、殻の両面にたっぷり塩を振って金網にのせて焼く。これで、焼けた殻がはね上がるのを防ぎ、塩が乾いたところで熱いうちに供する。

鈴木 晋一

【民俗・伝承】

【日本】ハマグリの肉汁はやけどなどの薬ともされたらしい。貝殻は近代まで葉や紅の容器として用いられた。また、碁石の材料ともなった。昔話の中には、〈蛤女房〉の話があり、ハマグリが押しかけ女房として男のもとを訪れて何らかの恩恵を施して去るという異類婚姻譚の一つとなっている。蛤女房譚には、蛤女房が美味な料理や汁をつくるが、夫になべにまたがって小便をする姿を見られてしまい、ハマグリとなって去るという料理をする女房型と、ハマグリから生まれた蛤姫がじょうずに機を織り男を富裕にさせて去るという機織り型とがある。

前者は、ハマグリの味や生態に基づく話とも思われるが、後者の話は靈魂を宿すものとしてのハマグリの信仰が見られる。またすでに室町時代の御伽草子に「蛤の草紙」があり、孝行の徳を強調した仏教的色彩の濃い物語となっているが、内容的には蛤女房の機織型にきわめて近似した話となっている。千葉徳爾+飯島吉晴

ハマグリが日本の文献で初めて登場するのは《古事記》で、八十神たちにねたまれた穴牟遲尊が神が焼死状態で死したとき、蛤貝比売と蛸貝比売が協力し、母乳汁を塗ってやけどのあとをいやし美男にする話である。母乳汁による治療とは、おそらく貝の分泌液のことであろう。なお、貝殻は焼いて粉末にし、喘息や胸痛、寒熱、陰痿、煩満などの治療薬とした。《医心方》は巻三十の五穴部に海蛤をあげ、《説文》を引用して「千歳のツバメが化して海蛤となる」と記している。《本草拾遺》は海蛤とは海中で爛殻(くちたるかひ)となったもので、長く砂泥にあって風波に洗われ円く清らかになったのであるとし、文蛤はまだ殻に文様があるものと説く。横佐知子【中国】《蛤蜊》文蛤と書く。《礼記》月令に「爵大水に入りて蛤となる」とあり、《礼記》大水に入りて蟹となる」とあり、古代中国では、ハマグリはスズメやキジの化身したものと信じられていた。《呂氏春秋》精通篇に「月望すれば則ち蚌蛤夷ち、月晦なれば則ち蚌蛤虚し」とあるように、月と関係が深く、月の満ち欠けに従って身が太り、またなくなるともいわれた。光の異常屈折による自然現象「蜃気楼」は、蟹が吐き出す気によって海面に現出する楼台だと解されていた。唐の《酉陽雜俎》《杜陽雜編》などに見え、殻の中から仏像が出現したという〈蛤像〉(蛤蜊観音)の説話は、ある種の二枚貝にまみえる真珠を仏像に見たてたのか、仏像を核にして挿入し貝の真珠層におおわせる古俗があったためであろう。江南の一部の地方には、日本の〈蛤女房〉の話と同型の昔話が伝わっている。殻を焼いた灰を湿気防止に壁の塗料に用いたり、殻を粉にした(蛤粉)を薬材にした。鈴木 健之

はまぐりこもんのへん 蛤御門の変

――禁門の変

はまぐりのそうし 蛤の草紙

御伽草子。渋川版の一つ。天竺摩訶陀「国のくしじら」は釣りをして母を養っていたが、ある日美しい蛤を一つ釣りあげた。それは船の中でにわかに大きくなり、二つに開いて、中から17〜18歳の容顔美麗な女房が現れる。40歳になるまで女房を持たないのも母へ孝養を尽くすためと言い訳するくしじらとを説きふせて、女房とくしじらとは夫婦になる。女が麻と鍾とくがいを求めて紡ぎ、機を求めて織りはじめると、見知らぬ者が2人来て、ともに織るを手伝う。くしじらは黒木で機屋を新造し、女は、見知らぬ若い女ともども12ヵ月かけて《法華経》二十八品のことごとくを織りあげ、その翌日鹿野苑の市で三千貫に売ろうくし

じらに教える。茸毛の駒に乗った齢六十ばかりの老人に、三十三尋の布を売ったくしじらは、誘われるままに南方の翁の館へ伴われ、孝行のしるしにと七徳保寿の酒を7杯飲まされる。わが家へ戻ると、女房は、南方普陀落世界の観音の浄土の使者だと打ち明け、虚空に上り南をさして飛び去る。くしじらは七千歳の齢を保ち、富貴繁昌した。くしじらは、古く大永6年(1526)の写本(慶応義塾大学図書館)にはく師祐くしうゆう、近世初期絵入写本(尊経閣)にくしゆふとあり、語義未詳。渋川版以前の横本の奈良絵本も存する(天理図書館など)。民間説話の〈蛤女房〉との交渉が考えられ、観音利益譚、《法華経》の功德譚としての特色を有する。

徳江 元正

ハマグリスイロイモチモンジセリ

ハマグルマ 浜車

Wedelia chinensis (Osbeck) Merr.

海岸のやや湿った草地に生えるキク科の多年草。茎は地をはって節から根をおろし、よく分枝する。葉は対生し、披針形〜長楕円形、縁に2〜3個の低い鋸歯がある。ときに最下位の鋸歯が強く開出する。茎、葉ともに圧毛がある。花期は8〜9月。花は斜上した茎の先につく頭花で、開花直径2〜2.5cmである。周辺の花は舌状花で、1頭花につき8〜13個、黄色である。和名はこの植物を浜に咲く車に見たてたところからつけられた。別名をクマノギクというが、これは和歌山県熊野で初めて発見されたことによる。分布域は伊豆半島以西、四国、九州、琉球から東南アジアに至る。同じくハマグルマと呼ばれるものにネコノシタ *W. prostrata* (Hook. et Am.) Hemsl. がある。これは海岸の砂浜に生える多年草で、クマノギクと同様に地をはう性質がある。花期は7〜10月。花はクマノギクよりひと回り小さい。また、クマノギクの冠毛が皿状または杯状であるのに対し、ネコノシタの冠毛は1〜2個の脱落性の剛毛である。分布域もほぼ同様で、日本海側を北陸地方にまで北上している。和名のネコノシタは葉の質が厚く、短剛毛が生えてざらつくことによる。小山 博滋

はまこ 浜子

入浜塩田の賃労働者の総称。発生は近世初期。賃金の約60%の前貸しをうけた1年季奉公の型が一般的である。これには常雇いのもの、準備・採鹹・作業日のみの日雇いであるが年季契約の見習徒弟的なもの、採鹹時間のみ出勤する老人・女子どもなど、および釜焚夫の4種類があった。自宅から出勤する塩田と、出稼労働者が浜子小屋に住み込む塩田とがあった。各地各様の呼称があったが、それは身分と作業内容を示す。一例として松永塩田の場合、大工には

上浜子一差浜子一三人目一四人目一

中者一炊き……常雇い

土振一寄せ一浜引一水引一昼から起し

……日雇い

日釜焚一夜釜焚

という区別があった。熟練と重労働に依

存する製塩労働は封建的労働組織のなかで習得された。しかし1700年ころから階級意識の芽生えもみられ、賃金闘争・団体交渉も近世後期には一般化し、各地で怠業や惣休みという抵抗もみられた。しかし島嶼部などからの出稼労働者の多い地域などでは、浜子市がたつ塩田もあった。▶▶塩田 広山 亮道

バマコ Bamako

西アフリカ内陸、マリ共和国の首都。人口44万(1980)。〈ワニの川〉を意味するバンバコ *Bamba Ko* から転訛した地名といわれる。同国南西部、ニジェール川西岸にあり、セネガルの首都ダカールと鉄道、道路、航空路で結ばれ、ニジェール川航路の河港でもある。商工業の中心で繊維、食品加工、金属製品などの工業がある。国立大学を中心に学術・文化施設も整っている。当地は11～15世紀のマリ帝国時代にイスラムの学術の中心となったといわれ、その後サハラ越えの隊商ルートの衰退により、19世紀までは停滞してきびれていた。1883年フランス軍に占領され、1908年フランス領スーダンの首都となった。60年のマリ独立とともに首都となる。

西野 照太郎

ハマゴウ *Vitex rotundifolia* L. f.

海岸の砂地に群生するクマツヅラ科の落葉低木。主幹は長く砂の中を横走り、ところどころから根を出す。枝は砂の上に立ち上がって高さ30～60cm。葉は対生し、楕円形または倒卵形、全縁で先は円いが、ごくまれに下部の葉が3裂することもある。花は、枝の先に円錐花序をつくって、夏に咲く。萼は杯形で低い5歯がある。花冠は青紫色、長さ13～16mm、2唇形で下唇は3裂して大きく開出し、内面に毛がある。おしべは4本、花の外につき出す。子房は上位で、先に2裂する花柱がある。花には少し香氣がある。漢方では果実を蔓荊子^{マクノシタ}と呼び、煎じて頭痛・風邪・強壮・消炎薬として用いる。また茎葉や果実を浴湯料として用いることもある。本州、四国、九州、朝鮮、中国、東南アジア、太平洋諸島、オーストラリアの海岸に広く分布する。 村田 源

はまさか 浜坂[町]

兵庫県北西端、美方郡の町。人口1万2821(1980)。日本海に面し、西は鳥取県と接する。岸田川とその支流の沿岸に耕地が分布するほかは、山地が海に迫っている。中心集落の浜坂は古くから京都と山陰を結ぶ交通の要衝として、また西廻廻船の寄航地として栄えた。農漁業は米の生産調整や漁業資源の減少などで衰退傾向にあるが、園芸農業の導入、漁場整備などで回復が図られている。諸寄^{モリ}と居組^{イグミ}は沿岸漁業の基地で、マツバガニの漁獲が多い。伝統的な縫針製造の技術をもとに、現在は縫針のほかミシン針、レコード針などの製針工業が盛んである。山陰本線浜坂駅の東2kmに二日市温泉、その南1kmに七釜温泉があって、合わせて浜坂温泉(セッコウ泉、42～49℃)と呼ばれる。海岸美に恵まれ、山陰海岸国立公園の一部をなす浜坂海中公園や但馬御火浦^{ミナモト}

(名・天)などがある。

松原 宏

〔歴史〕江戸時代には但馬国二方^{ニヘ}郡の在郷町、西廻廻船の寄航地として発展した。1760年(宝暦10)の〈浜坂村明細帳〉をみると、村高526石余、戸数465戸、うち高持百姓140戸、水呑百姓355戸、人数1783人、牛26疋。水呑百姓の全戸数に対する比率は高く、76.3%となっている。この時期の分業として、漁業150人、大工18人、船大工14人、鍛冶屋7人、紺屋7人をあげている。その後、縫針業と針金業が導入された。口碑によれば、天保(1830～44)ごろ町医者市原惣兵衛が長崎へ修業に出たとき、嘉五郎、武兵衛の2人を伴って帰り、縫針の生産をはじめたといわれている。1872年(明治5)の壬申戸籍によって15歳以上60歳以下の有業人口の構成をみると、農266人、工961人、商412人、漁業176人、雑業83人となっている。また、81年の産業統計では針生産額4000万本、代価2万4000円で、専業戸数60戸、兼業220戸となっている。なお、1858年(安政5)5月には、米価の高騰を契機にした激しい打毀^{ウチコロシ}が起こっている。

長倉 保

ハマザクロ *Sonneratia alba* Sm.

ハマザクロ科の常緑高木で、海辺の塩湿地に生え、マングローブ林をつくる。本種のことを一名マヤブシギ(猫ヒルギの意)という。根は水平に広く走り、たけのこに似た多数の木質の呼吸根を垂直に立てる。この呼吸根は大きなものは高さ50cm、直径10cmに達する。葉は対生し、厚い肉質で、卵形ないし卵状円形、先端は円く、基部はやや円形または短くとがり、ふちに鋸歯はなく、長さ5～8cm。花は小枝の先端に単生し、径4～5cm。萼は長さ3cmぐらい、革質で5裂し、宿存する。果実は扁円形で径3cmぐらい。西表^{サイハイ}島に産し、マレーシア、ミクロネシア、オーストラリア北部、東アフリカに分布する。防潮・防風・護岸のための植栽によく、若葉・若い果実や熟果は食べられる。オオコウモリはこの若い果実を好んで食べる。

ハマザクロ科は2属10種からなり、インドからマレーシア、オーストラリア、東アフリカに分布する。 初島 住彦

ハマザンニー al-Hamadhānī

968-1008

イスラムの文筆家。マカーマート文学の創始者。ハマザーン(ハマダーン)に生まれ、イラク、イランの諸都市を遍歴し、上は王侯から下は乞食に至るまでさまざまな社会層の人間と交わり、その体験をもとにアラビア語で散文説話文学〈マカーマート〉を著した。これは当時の社会と人間の実相が縮図化されたもので、その意味でも貴重である。400以上のアラビア語、ペルシア語の著作のうち、52が現存する。 花田 幸秋

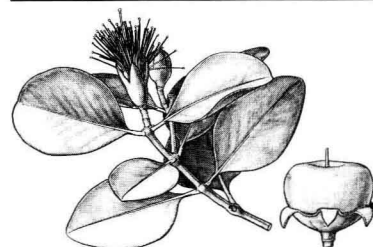
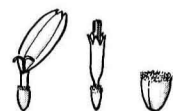
ハマサンゴ 浜珊瑚 *Porites tenuis*

花虫綱六放サンゴ亜綱ハマサンゴ科の腔腸動物。伊豆半島以南の暖海に分布し、水深15m以浅に産し、干潮線にも露出する。大きなものでは直径2mぐらいの



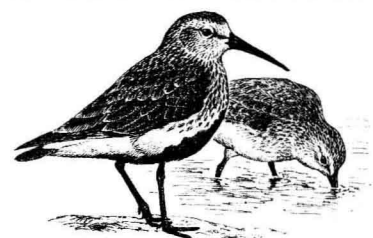
〔ハマグルマ〕

ネコノシタ。
下左一舌状花。
下中一筒状花。
下右一果実。



〔ハマザクロ〕

下右一果実。



〔ハマシギ〕

夏羽(左)と冬羽(右)。

岩のような群体になり、表面には瘤状の突起が多い。造礁サンゴとして重要な種類である。ポリプが生ずる莖^{シマ}は小さく、直径1～1.5mm、莖壁がうすく、ときに不鮮明になり、多孔質である。ポリプの色彩には灰褐色や緑色などがあり、おのおのの莖から小さなポリプを群生する。多毛類のイバラカンザシゴカイを骨格の中にとりこみ、棲管^{シマ}の入口だけが表面から見える。ハマサンゴの表面からイバラカンザシゴカイが色とりどりの鰓冠^{シマ}を多数だしているのは美しい。 今島 実

ハマシギ 浜鷸 *dunlin: Calidris alpina*
チドリ目シギ科の鳥。全長約21cm。北極圏のツンドラ帯で繁殖し、冬はアフリカ、南アジア、アメリカなどに渡る。日本には冬鳥または旅鳥として多数渡来する。くちばしはやや長く、少し下に曲がり、脚は短い。夏羽は頭上から背、肩羽、腰が赤褐色で黒い縦斑があり、上尾筒の中央は黒くて両側は白く、尾も中央は黒

くて外側尾羽は灰色である。下面は白く、顔から胸には細い黒色縦斑があり、腹部には大きな黒色斑がある。冬羽では上面が灰色、下面が白い。海岸や河口の干潟、広い川の岸や中州などにすみ、数千羽という大群になることもあり、シロチドリと混群をつくることもある。北海道や東北地方では少数が越冬している。水ぎわを歩きながらくびをちぢめ、くちばしを下にしたままあちこちと餌を探す。大群が飛び回っていつせいに向きを変えては飛び回る。ジュリーと鳴く。巣はツンドラの地上につくり、1腹4個の卵を産む。

高野 伸二

はまじま 浜島[町]

三重県南東部、志摩郡の町。人口7295(1980)。志摩半島南部にあり、南は志摩町西端の御座岬と相対して英虞湾の湾口を扼する。南東に突出する大崎半島に囲まれた内湾はリアス海岸を形成。英虞湾を見下ろす浜島の目戸山には円墳が分布し、目戸山古墳群と呼ばれる。中世の伊勢神宮領迫御所は迫子に、奈波利御所は南張釣におのおの比定されている。浜島港は江戸時代から漁港、避難港としてにぎわい、現在は遠洋漁業基地で、県立水産試験場もある。真珠養殖、水産加工業が盛んで、海女によるアワビやサザエの採取も行われる。農業は米作のほか南張のメロン栽培が知られる。迫子の曹洞宗吾湖院には、1459年(長祿3)北畠氏に滅ぼされた五ヶ所城(南勢町)の城主愛州重明(義明)の墓と伝える五輪塔がある。浜島の宇気比神社の正月行事である盤の魚と弓引神事は著名。大崎半島先端にはミュージック・キャンプ場を中心とした大レジャーセンター<合歡の郷>がある。町域は伊勢志摩国立公園に含まれる。

上田 雅子

ハマーショルド Dag Hjalmar Agne Carl Hammar skjöld 1905-61

スウェーデンの政治家、経済学者で2代目の国際連合事務総長。ウプサラ大学を卒業。1933年ストックホルム大学経済学教授となる。その後、国際問題に明るいのを評価されて49年外務次官となる。53年4月10日米ソ両陣営の支持を得て、T. H. リー初代国連事務総長の後任として選ばれ、57年に再選。1956年のスエズ動乱のさい国連緊急軍の編成、派遣にあたり政治的手腕を発揮した。60年のコンゴ戦争にさいして、国連の平和維持活動を指揮し現地へ赴いたが、北ローデシアで飛行機事故のため殉職。死後、61年度ノーベル平和賞が授与された。

香西 茂

ハマジンチョウ 浜沈丁

Myoporum bontioides A. Gray

暖地の海岸湿地に生えるハマジンチョウ科の低木または小高木。葉は互生し、単葉、多肉質で、倒披針形または長楕円形、長さ6~12cm、先端は細長くとがり、基部は狭長、ふちは全縁または先端に少数の浅い鋸歯があり、両面とも無毛、側脈

は3~4対。初夏、葉腋に1~3個の花をつけ、花冠は漏斗状、長さ2.5~3cm、直径2cmぐらい、淡紅紫色、裂片は5枚で長楕円形をなし、内部に紫の斑点がある。花梗は細く長さ1.5~2cmで、上方はやや太くなる。果実は核果、液質で球形、先端はとがり、4~8室。日本(九州南部~琉球)、台湾、中国南部、インドシナに分布する。まれに観賞用に栽植される。

ハマジンチョウ科は5属90種からなり、オーストラリアを中心にポリネシアから東南アジアにかけてと、アフリカ南部に分布する。

初島 住彦

ハマスグ 浜菅 coco-grass: nut-grass: *Cyperus rotundus* L.

カヤツリグサ科の多年草。畑や公園等の雑草として嫌われる一方、漢方薬では重要な薬草の一つでもある。細いが硬い地下茎を伸ばしてよく繁殖し、その先端と茎の基部に長さ1cm弱で卵形の塊茎がある。茎は細く、高さは10~20cmで、基部に少数の細く短い葉がある。夏から秋にかけて、茎の頂に苞葉2~3枚と3~4個の枝をもった散形花序を出し、濃赤褐色で細い小穂をややまばらにつける。全世界に分布する雑草で、砂地に多いが、畑地に入ると除きにくい害草となる。

塊茎にはデンプンのほかにセスキテルペン(炭素数15のテルペン)を含む精油があって、塊茎を乾燥したもののが日本薬局方第二部の香附子である。他の生薬と配合して、肝機能障害、胃痛、腹痛、通経、鎮痛の効がある。インドでは古くから薬として使われていたほか、近縁で時には栽培もされる*C. esculentus* L. とともに救荒食用植物として、デンプン食料にされた記録もある。

▶▶▶ カヤツリグサ

小山 鐵夫+新田 あや

ハマースタイン Oscar Hammerstein II 1895-1960

アメリカの作詞家、劇作家。ミュージカルを単なる娯楽でなく、人生の重要な問題を扱った芸術にまで高めようと努力したことで知られる。1920年代初めから仕事をしていたが、彼が脚色、作詞した27年の《ショー・ボート》(作曲J. カーン、原作E. ファーバー)は、リアリスティックな台本をもったアメリカ最初のミュージカルとして重要である。彼の特色は文学性を重視した台本、わかりやすい詞、楽天的人生観にあるが、これらの傾向は作曲家リチャード・ロジャーズと組んだ仕事において最もよくあらわれた。すなわち《オクラホマ!》(1943)、《回転木馬》(1945)、《南太平洋》(1949)、《王様と私》(1951)、《サウンド・オブ・ミュージック》(1959)などである。他方、彼の作品がしばしば教訓的で感傷的になりがちなこと否定できない。

喜志 哲雄

パーマストン Henry John Temple, 3rd Viscount Palmerston 1784-1865

イギリスの政治家。19世紀中葉のイギリス自由主義外交の指導者として知られる。アイルランド貴族の家に生まれ、ハロー校を経て、エジンバラ大学とケンブリッ

ジ大学に学び、1802年父の死によって襲爵。07年、トーリー党の下院議員として政界に入り、海軍次官(1807-09)を経て19年間も陸相(1809-28)を務めた。この間G. カニングの強い影響を受け、それが彼の自由主義外交の下地となった。29年、トーリー党からホイッグ党に移り、30-34年、35-41年、46-51年と歴代ホイッグ=自由党内閣の外相を務め、52-55年に内相、ついで55-58年と59-65年の2回にわたって首相を務めた。

彼の外交は、イギリスの国益擁護を至上の目的とし、世界に冠たる海軍力に頼って他国と同盟せず、ヨーロッパ諸国に対しては勢力均衡を、それ以外のアジア、南北アメリカ、イギリスの植民地に対しては自由貿易の拡大を指向する、というものであった。この見地から、1839年のロンドン条約でベルギーの独立と安全を保障し、イタリアの独立運動には好意的であったが、プロイセンの強大化を喜ばず、そのためにドイツびいきのビクトリア女王からは嫌われた。また、ロシア嫌いであったことも手伝って、東方問題ではトルコの側に立ち、55年から58年にかけてクリミア戦争を指導し、イギリスに勝利をもたらした。一方、ヨーロッパ以外の諸地域に対しては、たとえば中国でのアヘン戦争やアロー号事件について見られたように、自由貿易政策の遂行上必要とあれば、武力の行使も辞さず、しばしば高圧的な砲艦外交を行った。国内政治については、労働者階級への選挙権拡大を認めないなど、概して現状をもってよしとする保守主義者であった。後世の歴史家からは、ときに偉大なる平凡人として評価された。

村岡 健次

パーマストン・ノース Palmerston North

ニュージーランド北島南部の都市。ウェリントンの北東140km(道路距離)、マナワトゥ平野の東部、マナワトゥ川右岸に位置する。人口6万0105(1981)。マナワトゥ平野の農牧地帯を後背地とした農産物の集散地で、食品加工、繊維、機械などの各種工業が行われる。マッセー大学はじめ専門学校や研究所があり、空港(国内線)がある。1866年の開基で、1930年市制をした。名称はイギリスの首相名に由来する。

谷内 達

ハマーズリーさんち ハマーズリー山地 Hamersley Range

オーストラリア西部、ウェスタン・オーストラリア州北西部、ビルバラ地方にある高原状の山地。フォーテスキュー川とアシュバトン川との間を北西から南東に約260kmにわたってのび、川が峡谷をきぎむ。中央部では標高1000mをこえ、州の最高峰ミハリ山(1251m)がある。先カンブリア層の岩石からなり、大規模な鉄鉱山がある。1861年グレゴリーが<発見>し、後援者である海軍省高官の名にちなみ命名した。

谷内 達

はまだ 浜田[市]

島根県西部、日本海に面する市。1940年市制。人口5万0799(1980)。石見地方の中心都市で、古代には石見国の国府が

置かれた。藩政時代に植林計画が進められ、古くから行われていた石見(石州)半紙の生産、養蚕が奨励された。また、砂鉄、石州瓦(赤瓦)、粗陶器などの特産物の生産も始まった。明治維新後、殿町など浜田川北岸の侍屋敷は官公庁街、住宅街に、南岸の町屋は商店街となった。日本海沿岸はリアス海岸で冬の季節風を防ぐのによく、帆船時代、とくに長浜港(現在は浜田港に含まれ、商港となっている)は朝鮮交易で栄えた。浜田港は、明治半ばには貿易港に指定され、神戸税関支署も置かれた。1933年には漁港の整備が完成し、山陰西部の漁業基地となった。かまぼこなどの水産加工も盛んである。西部の周布には木工団地がある。1872年(明治5)の地震により4300戸が全壊したが、翌々浦の海岸がのとき隆起して千畳敷(天)の景勝地をつつた。山陰本線、国道9号線が通じる。

池田 善昭

〔浜田城下〕石見国の城下町。1543年(天文12)毛利氏は一族の繁沢元氏を那賀郡浜田の夕日ヶ丘に配して石見支配の一拠点とした。1619年(元和5)古田重治が石見国に封じられ、浜田藩が成立すると、古田は夕日ヶ丘を含む亀山に浜田城を築き、山麓一帯を曲輪内として上・中級武士の居住地とした。城下町は浜田川左岸の原井村の一部に造成し、ここに紺屋町、新町、片庭町、蛭子ヶ町、櫓物屋町、門ヶ辻町、辻町、原町が成立した。これが浜田八町で、武士、町人の混住もあった。1733年(享保18)の記録では八町621戸、土屋敷264戸、浦方185戸とある。浦方には浜田浦、松原浦、瀬戸ヶ島があり、天然の良港外、浦は西廻海運開発以来その寄航地として栄え、多くの廻船問屋も成立した。戸数も八町、土屋敷がほとんど変化がないのに対し、浦方では1848年(嘉永1)には440戸と著しい増加をみる。浜田からの積荷は銑鉄、半紙、干鰯、生蠟などの浜田藩特産物で、揚荷は米、塩、砂糖などが主であった。1836年(天保7)密貿易が発覚した竹島事件の中心人物会津屋八右衛門は松原浦の廻船問屋であった。66年(慶応2)浜田藩は長州戦争に敗れたため、石見の政治の中心は瀬摩郡大森に移った。70年浜田県となり県庁も浜田へ移され、再び石見の政治・経済・文化の中心地となった。

江面 竜雄

ハマダイ 浜鯛 *Etelis carbunculus*

スズキ目フェダイ科の海産魚。タイとはつくが、タイの仲間ではない。分布が広く、本州中部以南、沖縄、フィリピン、ハワイ、東アフリカ、モーリシャス、セーシェルなどの沿岸の200m以深とかなり深いところにすむ。一本釣り、あるいは立縄で漁獲。体全体が赤みを帯びるが、背部は紅色が強く、腹部は銀白色に近くなる。ひれと口の中も紅色。アカチビキ(田辺)、アカマチ(沖縄)の呼名がある。英名はruby snapper。尾びれは深く切れ込み、上下両葉が長いので、オナガ(東京、八丈)と呼ばれる。全長1mに達する。白身で美味。刺身、塩焼き、わん種にする。沖

縄や鹿児島では東京などのマダイのように賞味する。近似種にハチジョウアカムツ *E. marshi* がある。ハマダイと似ているが、尾びれの下葉先端が白いので区別される。中部太平洋から西インド洋まで分布する。ハマダイと混獲される高級食用魚。

清水 誠

はまだくにまつ 浜田国松

1868-1939(明治1-昭和14)

政治家。三重に生まれる。1891年東京法学院(現、中央大学)を卒業して、弁護士となる。宇治山田市議会議長を経て、1904年第9回総選挙で初当選、以後当選12回。甲辰倶楽部、猶興会、又新会に属し、立憲国民党結成に参加、以後大養毅と歩みを共にし25年立憲政友会に入る。27年田中義一内閣で司法政務次官に就任。しだいに雄弁家として知られ、*帝人事件を検察ファッショと批判するなど、しばしば代表質問に立ち、二・二六事件後の第70議会(1937年1月)で軍部の政治関与を批判し、寺内寿一陸相と腹切り問答を展開したことは有名である。この間、第67、68議会(1935-36)で衆議院議長を務めた。

古屋 哲夫

はまだこうさく 浜田耕作

1881-1938(明治14-昭和13)

考古学者。青陵と号す。大阪府南河内郡古市村(現、羽曳野市)生まれ、第三高等学校を経て、1905年東京帝国大学文学科大学史学科を卒業。専攻は西洋史学であったが、在学中より《国華》の編集にたずさわわり、同誌あるいは《人類学雑誌》に考古学・美術史の論文を発表した。09年京都帝国大学文学科大学講師として京都に移り、京大に考古学研究室を創設した。13年助教授、17年教授に進み、文学博士の学位を受けた。37年京都帝国大学総長に任ぜられたが、翌年病没した。この間に欧米に外遊すること2回、朝鮮、中国の調査旅行は連年におよんだ。はやく《通論考古学》(1922)を著して考古学の研究法を教え、《京都帝国大学文学部考古学研究報告》14巻(1917-37)を刊行して、大いにその学風を示した。《東亜考古学研究》(1930)などの論文集、《ミハエリス美術考古学発見史》(1927)などの訳書、《百済観音》(1926)その他の随筆集など、50冊にのぼる単行の著作がある。

小林 行雄

はまだしょうじ 浜田庄司

1894-1978(明治27-昭和53)

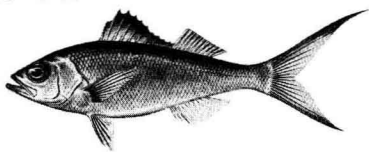
陶芸家。川崎市溝口に生まれる。本名象二。1913年東京府立一中から東京高等工業学校窯業科へ入学、板谷波山に学び、2年先輩の河井寛次郎を知る。卒業後は京都陶磁器試験場に入り、約3年間河井とともに釉薬の試験に専念、この間、富本憲吉、バーナード・リーチ、*柳宗悦らと親交、ことに柳の民芸論に共鳴する。20年リーチとイギリスへ渡りセント・アイブズで作陶生活に入るが、24年帰国後は栃木県益子町で*民芸の世界に没頭、益子が従来使用していた土と7種類の釉薬だけで益子焼を革新し、さらに沖縄の赤絵や会津の磁土を加味した独自の作品を次々と生み出して世界中の陶人に広範

【ハマジンチョウ】

左一花の縦断面。



【ハマダイ】



な感化を及ぼした。55年重要無形文化財保持者に指定され、さらに多年にわたる民芸運動の功績で68年文化勲章を受章した。また柳宗悦の没後、62年から2代目日本民芸館館長として全世界の民芸品蒐集に尽力、77年彼個人の收藏品で自宅に益子参考館を開設している。著書に《無尽蔵》《窯にまかせて》の随筆集がある。

吉田 耕三

はまだはん 浜田藩

石見国那賀郡浜田(現、島根県浜田市)に藩庁をおいた譜代中藩。ただし初期は外様、末期は親藩。1619年(元和5)古田重治が伊勢国松坂より浜田へ封じられ、那賀、邑智、美濃3郡で5万0400余石の浜田藩が成立した。藩領は東部はほぼ江川をもって石見銀山領と境するが、江川舟運の要津や銀山の所在地は江川を越えて銀山領に編入された。西部と南部は津和野藩と接するが、領域内に津和野藩の飛地があるなど不自然複雑な領域を形成した。49年(慶安2)松平(松井)氏、1759年(宝暦9)本多氏、69年(明和6)再び松井氏、1836年(天保7)松平(越智)氏と領主は交替し、領域の増減もたびたびあったが、幕末期には6万1000余石となった。領域の大部分は海岸部に迫る山地帯が占め、狭長な海岸も多くは砂丘地で生産力は低く、産米はつねに不足したので、越後米や秋田米などの輸入にまたなければならなかった。その代償として銑鉄、半紙、蠟などの特産物を奨励し、漁業振興を推進したが、たびたびの領主の更迭や凶作などで藩財政は極度に逼迫し、年貢先納や藩発起の頼母子講などにより危機の回避を図らなければならなかった。藩主所替にまで発展した天保の密貿易事件(竹島事件)も、藩財政の危機を背景としたものであった。藩校は松井氏時代に長善館、越智氏時代

は道学館があった。松井氏時代は藩主康定、康任の好学もあり国学が興隆し、鈴屋門人録に士庶19名が名を連ね、小篠御野のような碩学も出た。1864年(元治1)、66年(慶応2)の長州征伐にあたっては浜田藩は第一線となり、益田で戦ったが敗退し、66年7月18日浜田城は炎上落城した。藩主松平武聡は海路出雲に落ち松江藩を頼ったが、のち飛地の美作国鶴田に移った。浜田藩領は長州の軍政下におかれ、69年(明治2)大森県の管下に入ったが、70年3月浜田県となり、76年4月島根県へ統合された。

江面 竜雄

はまだひこそう 浜田彦蔵

1837-97(天保8-明治30)

幕末の漂流者。播磨(兵庫県)に生まれ、アメリカに帰化してジョセフ・ヒコ Joseph Heco と称し、アメリカ彦蔵ともいわれる。1850年(嘉永3)冬、江戸からの帰途海難にあい、漂流50余日でアメリカ船に救助され渡米、いったんマカオに送られたがペリー艦隊にあえず再び渡米し、アメリカで教育を受け、58年(安政5)アメリカ市民となった。その間ピアースおよびブキャナンの両大統領と会い、59年アメリカ領事の通訳として来日し、日米通商条約の実施、遣米使節の派遣など外交交渉に活躍した。63年(文久3)長州藩の外国船砲撃(馬関戦争)の際は、職責上ワイオミング号に乗り下関砲撃に参加した。その後職を辞し横浜で商社を開き貿易に従事、英字新聞から訳出して『海外新聞』を発売した。69年(明治2)大阪造幣局の設立に助力し、伊藤博文、木戸孝允とも交わり、72年大蔵省にはいり渋沢栄一のもとで国立銀行条例の編纂に従事した。著書に『The Narrative of a Japanese』(邦訳『アメリカ彦蔵自伝』)がある。

池田 皓

はまだひろすけ 浜田広介

1893-1973(明治26-昭和48)

児童文学者。山形県の生れ。本名広助。1918年早稲田大学英文科卒業。在学中、『万朝報』に数編の投稿小説が入選、掲載されたが、同じ在学中の17年、『大阪朝日新聞』懸賞童話に筆名赤名辰吉で応募した『黄金の稲束』が一等当選、その縁で『良友』に『くろはろ鳥』『呼子鳥』を発表、結局、以後児童文学一筋の人生を送った。大学卒業後、春秋社、コドモ社、精華書院、実業之日本社などの出版社に勤めながら作品を発表、21年に処女話集『椋鳥の夢』を刊行、23年からは文筆一本の生活に入った。広介童話の大半は小学校中級以下の子どもを対象とした短編で、ために広介童話は幼年・幼児童話の代表として評価されてきたが、ストーリーの展開によるおもしろさよりは、情緒的美意識の世界を七五調中心のリズム文体で展開した作品が多く、戦後、新しい児童文学の波が興った際、『小川未明とともに』に批判の対象となった。

鳥越 信

はまたま 浜玉[町]

佐賀県北部、東松浦郡の町。1956年に成

立した浜崎玉島町が、66年改称。人口1万0474(1980)。西は唐津市、北は福岡県に接し、北西は唐津湾に臨む。脊振山地西部の山嶺に源を発する玉島川が町域を西流して唐津湾に注ぐ。玉島川には神功皇后アユ釣りの伝説があり、『万葉集』にも詠まれた松浦川は現在の『松浦』ではなく、この川を指す。町の中心の浜崎は玉島川河口左岸にあり、『虹』松原の東端にあたる。中世には、北部の城山に鏡神社(現、唐津市)の大宮司草野氏が鬼ヶ城を構え、一帯を支配した。浜崎は近世には廻船の停泊地として栄えた。農業を主産業とし、山麓地帯でのミカン栽培が盛んで、『玉島ミカン』として知られる。玉島川に並行して国道323号線が、唐津湾岸を国道202号線と国鉄筑肥線が通る。城山の山麓に『谷口古墳(史)、唐津市境から延びる』『鏡山の山すそ近くには横田下古墳(史)があり、後者は横び式石室から10体の遺骨と鏡、筒形銅器などの副葬品を出土した。

松橋 公治

はまだやひょうえ 浜田弥兵衛

江戸前期の長崎代官・末次平蔵の朱印船船長。生没年不詳。1625年(寛永2)台湾に渡航した際、同地のオランダ長官デ・ウィットに妨害され、取引が進まず、越年した。28年に渡航したとき、長官 P. マイツを縛って脅し、紛争和解のための契約書に署名させた。双方から5人ずつ人質が交換され、弥兵衛船はオランダ人質を乗せて長崎に帰った。この事件のためオランダ貿易は1633年まで中断し、その後の日蘭関係に多くの影響を及ぼした。

永積 洋子

ハマダラカ

双翅目カ科ハマダラカ亜科 Anophelinae 約400種、またはその中のハマダラカ属 Anopheles 約380種の昆虫の総称。後者はアノフェレスとも呼ばれる。多くが翅に斑紋をもつためこの名がある。成虫は尾端をつき上げて止まり、幼虫は水面に平行に浮く特徴をもつ。本属のカだけが人のマラリア病原体に感受性をもち、とりわけ約50種が人吸血を好み飛来数も多く、強い媒介力をもつ重要種とされている。夜間に屋内に入り吸血をし、満腹すると壁に止まって休む習性が一般的であるため、屋内残留噴霧と称して残効力の強い殺虫剤をあらかじめ壁面にまいておく方法がマラリアとカの防除に著効を示す。幼虫の発生源は、種により異なる。日本には10種ほどいる。水田に発生するシナハマダラカ *A. sinensis* がもっとも普通種で、三日熱マラリアの主媒介カだった。豚舎などにライトトラップをつるすとよくとれる。またコガタハマダラカ *A. minimus* は八重山群島から熱帯アジアに至る地域の溪流に発生し、各地でマラリア媒介カとして重視されている。

▶▶カ 栗原 毅

ハマダーン Hamadān

イラン北西部の同名州の州都。人口16万6000(1976)。ハマザーン Hamadhānとも呼ばれた。歴史は古く、メディア王国の首都・エクバタナの所在地であり、アケメネス朝には夏の宮殿(都)となった。645

年ころアラブ・イスラム教徒の支配下に入り、もっぱら東西交易の中心地として栄えた。11世紀以降、セルジューク朝、イル・ハーン国、ティムール朝などの支配をうけ、1724年オスマン帝国が奪取したが、32年カージャール朝下でイラン領となった。19世紀後半にはイラン電信線が敷設され、また、バグダード貿易で繁栄した。その後貿易ルートがペルシア湾ルートに変わると、皮革、じゅうたんなど伝統的産業を除いては、発展から取り残される形となった。

加納 弘勝

ハマチ▶▶ブリ

はまでら 浜寺

大阪府堺市から高石市にかけての臨海地区。『万葉集』『古今集』などにみえる歌枕として著名な高師浜崎で、南北朝時代に大雄寺(高師の浜寺)が創建されてから、その北部が浜寺と呼ばれるようになった。古来、白砂青松の景勝地として名高く、1873年には太政官布告により海浜一帯が近代最初期の公園の一つとして府立の浜寺公園となった。97年の南海鉄道(現、南海本線)開通につづき、阪堺電気軌道(現、南海阪堺線)、阪和電気鉄道(現、国鉄阪和線)の支線設置など交通機関が整備されたため、関西における最も著名な海水浴場としてにぎわった。また第1次大戦後周辺は高級住宅地として発展した。しかし1960年代以降、堺泉北臨海工業地域の建設に伴って、沖合に広大な埋立工業地と浜寺水路が造成されたため、景観は一変した。使用不能となった海水浴場に代わって、プール、野球場、テニスコート、交通遊園が設置され、浜寺水路は漕艇など水上スポーツに供用されて、新しいレクリエーション地としての都市公園に再生している。

服部 昌之

ハマト Hamath

シリア北部の古代都市遺跡。現在名は『ハマー。オロンテス(アジ)川流域に位置する交通の要衝で、青銅器時代にヒッタイト帝国の影響下に都市として発達し、前1200年ころからはアラム人や新王国時代のヒッタイト人が地方的王朝を樹立した。後者が残したヒッタイト聖刻文字碑文はその最南の支配範囲を示す。イスラエル統一王国時代にはダビデやソロモンの支配下にあったと思われるが、その後独立し、西進するアッシリア軍に抵抗した。前853年には反アッシリア都市連合軍に加わり、シャルマネセル3世の軍勢とカルカルで戦った。前8世紀初頭にはアッシリアに臣従していたが、その後もしばしば反乱した。前720年にサルゴン2世によって最終的に征服され、住民の多くはイスラエルのサマリアに強制移住させられ、代わってサマリアの住民がここに入植した。ヘレニズム時代のハマトはシリア王アンティオコス4世の名にちなんでエピファニア Epiphania と呼ばれ、ローマ時代にはキリスト教のバシリカがあった。

小川 英雄

はまどおり 浜通り

福島県東部の地域名。福島県を地勢をもとに東から浜通り、『中通り』、会津地方

の3地域に分けた場合の地域名の一つで、古くから関東から東北地方への通路である浜街道が通っており、その街道の通過する周辺地域としてこの名称が用いられる。浜海道、東²海道、海道とも称した。現在、交通路としては国道6号線と国鉄常磐線が通じている。西部は阿武隈高地の東半部、東部は浜通り低地帯で、東は太平洋に臨む。全般的に、降水量は夏に多く冬に少ない太平洋側気候で、特に低地帯は中通り、会津地方と比較して夏涼しく冬温暖であり、県内で暖帯照葉樹林のみられるのはこの低地帯だけである。行政的には、いわき、原町、相馬の3市と、双葉、相馬2郡の12町村が含まれ、面積2970km² (全県の23%)、人口54万6417(1980、全県の27%)。

この地域の南部はかつて常磐炭田で栄え、現在は小浜²港を核とする臨海工業地帯をもっている。郡部の低地では水田農業が盛んだが、近年、臨海部に大型の原子力発電所や火力発電所がつくられ、電源地帯となっている。南部にあるいわき市はこの地方の中心で、面積1229.5km²と日本一広い市であり、人口も東北地方では仙台市に次ぐ。 大澤 貞一郎

はまとんべつ 浜頓別町

北海道北部、オホーツク海に面する、宗谷支庁枝幸²郡の町。人口6503(1980)。町域はおおむね平たんて中央を頓別川が北東に流れる。中心集落は頓別川下流域にあり、国鉄天北線が通り、浜頓別駅で興浜北線を分岐する。また国道238号線と275線の分岐点でもある。17世紀末に松前藩の直轄漁場となり、1895年ころから砂金採取などのために定住者が増え、明治末期の植民地区画以後開拓者の入植も増加した。海岸部ではサケ・マス、ケガニ、ホタテガイなど、オホーツクの豊富な水産資源を利用する漁業が営まれ、内陸部では大規模な土地改良による酪農が盛ん。ハクチョウの飛来で知られるクッチャロ湖、6〜7月にはハマナス、ヒオウギアヤメなどが美しいベニヤ原生花園、*神威²岬などの景勝地があり、北オホーツク道立自然公園に含まれる。またクッチャロ湖畔には縄文時代早〜晩期の日ノ出貝塚と擦文時代の竪穴住居跡群がある。 奥平 忠志

はまなおはし 浜名大橋

浜名湖が遠州灘に通ずる今切口をまたぐコンクリート道路橋。国道1号線の自動車専用道路浜名バイパスのほぼ中央に位置する。橋長630m、5径間にわたって連続するプレストレストコンクリート桁構造で、その中央径間長240mは、1976年完成後しばらくの間この形式の橋として世界最長を誇っていた。橋脚と桁は一体構造となっており、中央径間の中央にはヒンジを設けて、桁に無理な力がかからないようにしている。桁は箱形断面で、もっとも背の高い中央径間橋脚上では厚さ13.7mと巨大。 伊藤 学

はまなか 浜中町

北海道東部、釧路支庁厚岸²郡の町。人口9243(1980)。太平洋に面し、町域は標

高60m内外の丘陵地と霧多布²島、嶮暮²島などの小島からなる。気候は寒冷で春から夏にかけて濃霧が多い。中心集落の霧多布は霧多布島の砂州上にあり、1960年のチリ地震の津波で陸繋砂州の一部が切れたため、現在は霧多布大橋により陸地と結ばれる。内陸部の台地上を根室本線と国道44号線が通る。1869年(明治2)に佐賀藩の分領となり、同藩が12戸の農工民を移住させたのが定住の最初という。70〜71年漁場が嶮富右衛門に貸し付けられ、陸奥、福山(松前)、函館から募集した漁民とともに湾奥の嶮町付近に集落を形成、以後漁業入植者も増加した。内陸部では1917年ころから茶内原野を中心に開拓が進んだ。霧多布を中心にコンブを主とする沿岸漁業と水産加工、台地上で大規模酪農が行われる。町域南西部は厚岸道立自然公園に含まれ、*霧多布湿原や、太平洋と霧多布湿原を一望する嶮町高台、海岸美の湯沸²岬(トッカリ岬)、海鳥の繁殖地として知られる嶮暮²島など景勝の地が多い。 奥平 忠志

はまなこ 浜名湖

静岡県西部の汽水湖。面積は北西部の*猪鼻²湖(5.5km²)を含め68.8km²と日本第10位であるが、湖岸線は屈曲に富み延長103kmで琵琶湖、霞ヶ浦に次いで第3位である。最大深度12.2m、かつては砂州で遠州灘と隔てられた淡水湖で、近江国の琵琶湖に対して遠淡海²と呼ばれた。湖の北部から南西にのびる大崎半島、村橋半島によって分けられる北西部の猪鼻湖、北東部の引佐²・細江、東部の庄内湖をはじめ、松見ヶ浦、内浦など入江が多く、南は今切口²で遠州灘に通じる。北東部から都田²川、南東部から新川が流入する。湖岸は干拓、埋立て、養魚場造成などにより自然汀線の消失が著しい。

浜名湖の成因は、三方原、高師原、天伯原などの洪積台地の浸食谷が沈降や海面の上昇により沈水したのち、湾口を天竜川からの漂砂による砂州でふさがれたもので、南半部は砂質堆積物からなり、イカリ瀬、大瀬、八兵衛瀬などの浅瀬が多く、北半部は泥質堆積物からなり、水深も6〜12mと深く沈水性を示している。外海とは砂州を切る浜名川が通じ、中世、湖畔には橋本宿(*橋本)があった。1498年(明応7)の地震津波により砂州が破壊され、今切口の開口部が生じ汽水湖となった(*今切渡)。その後、1510年(永正7)の災害で橋本宿は水没、東海道の舞坂宿と新居宿(*新居)の間は渡船区間となった。津波で切断された砂州の一部は江戸時代に埋め立てられて*弁天島となり、現在、東海道本線、同新幹線がその上を通る。

湖水中の栄養塩類が豊富でプランクトンの繁殖がよいので、生息する生物の種類が多く、また外洋性魚類も迷いこんでその数は増加し、魚類だけでも300種近く生息するといわれる。湖面漁業が活発で、エビ、カニ、ウナギなどが漁獲されるほか、南部ではノリ、カキ、ウナギ、スッポンの養殖が盛んである。特にウナギの養殖は1890年代に舞阪で始められ、



【ハマナス】右下一果実。

日本の代表的産地として知られる。近年は養鰻池をビニルで覆うものが多い。湖の南半は潮汐の影響により湖水の循環が良好であるが、北半は停滞水域となり、湖水汚染、赤潮発生、透明度低下など環境問題も生じている。

浜名湖南部の弁天島は明治中期から潮干狩り、海水浴を中心とした保養・観光地として発達してきたが、湖北の奥浜名と呼ばれる地域は、浜名湖北部を通る東名高速道路三ヶ日インターチェンジの設置(1969)とこれに接続する浜名湖レークサイドウエー(1968開通)、弁天島から村橋半島にいたる浜名湖大橋(1973開通)などの建設を契機に*館山寺²温泉を中心に観光開発がすすんでいる。一帯は浜名湖県立自然公園となっている。 北川 光雄

ハマナス *Rosa rugosa* Thunb.

海岸砂地に生え、美しい花の咲くバラ科の落葉低木。高さ1m内外、細いとげが生え、全体に短毛が多い。葉は羽状複葉。小葉は7〜9枚、楕円形、長楕円形などで、長さ3〜5cm、表面は無毛でしわがなる。花は6月から8月の間に、枝先に1〜3個つき、径5〜10cm、香りがある。花弁は紅色でまれに白色、おしべは黄色で多数。果実は球形、8〜9月ごろ赤く熟する。アジア東部の温帯と亜寒帯に広く生じ、日本では北海道に多く、南は太平洋側は茨城県、日本海側は鳥取県まで分布する。根はタンニンを含み、染料となる。花からは油をとって香料とし、また花弁を乾燥した生薬は玫瑰花²で、下痢止めや月経過多に用いられる。果実にはビタミンCが多く、食用になる。和名のハマナスは、浜ナシの東北なまりで、ナシに似た果実の形に由来し、ナスとは無関係である。 山中 二男

はまなっとう 浜納豆

浜名納豆²の略。塩辛納豆の一種で、遠江の大福寺(現、静岡県引佐郡三ヶ日町)でつくり始めたといわれ、1638年刊の『毛吹草』にも名が見えている。 ▶▶▶納豆

編集部

ハマナツメ 浜藨

Paliurus ramosissimus (Lour.) Poir.

暖かい地方の海岸近くに生え、ナツメに

よく似た葉をつけるクロウメモドキ科の落葉灌木。基部から株立ちし、徒長枝には托葉の変形したとげがある。葉は卵円形で、細かい鈍鋸歯があり、3脈が顕著。表面は無毛でつやがある。花は8月ころ、枝の上部の葉腋に数個ずつつく。淡緑色で、萼片は三角形で5枚、花弁は萼片と互生し、ごく小型で、内におしべを包み込む。黄緑色の花盤があり、それに埋まるようにめしべがある。果実はコルク状の組織に包まれた乾果で、径約1.5cm。上部には3浅裂して歯牙のある広い翼を有する。本州(東海道以西)、四国、九州、琉球、済州島、台湾、中国大陸、インドシナに分布する。地中海沿岸から中国大陸に分布するセイヨウハマナツメ *P. spinachristi* Mill. (英名 Christ's-thorn) はキリストの荊冠の冠をつくった植物といわれている。

岡本 素治

ハマニンニク 浜蒜 *American dune-grass*: *Elymus mollis* Trininus

海岸の砂丘や砂地に群生する大型のイネ科の多年草。株立ちとなり、またたく長く横にはった地下茎を出す。茎は円柱形で直立し、高さは1~1.5m、数個の節があり、上部に短い毛がある。葉は根生および茎上生で、やや幅広い線形、初めは扁平、後に多少内巻となり、長さ20~50cm、幅は6~15mmほどで、質はやや厚く、白っぽい緑色をしている。6~7月ごろ、茎の頂に単一円柱状の穂状花序を直立し、花序は長さ15~25cm、幅1cmあまりで、密に多数の小穂をつけ、初め淡緑色で後に多少黄色を帯びた白色となり、全体に短い毛が多い。小穂は花序の各節にふつう2個、ときに3~5個ずつつき、柄はなく、長さは1~2cm、3~5個の小花がある。穎は膜質で、小花とともに芒はない。東シベリアから北アメリカにわたる北太平洋の沿岸に広く分布し、日本では北海道から太平洋側は関東地方の茨城県まで、日本海側は中国地方から北九州まで南下している。

和名は、海岸に生えて葉がニンニクのそれに似ているところからきており、別名の「草薙」は葉が強靱でトウのようであるという意味。また別名の「テンキ」はトウのアイヌ語であり、本種からとれる麦角はテンキバッカと称して生薬とされる。

小山 鏡夫

パーマメント・ウェーブ permanent wave
熱または化学薬品の作用で、毛髪の組織に変化を与え、髪にウェーブをかける方法。名称は長期間(3~4ヵ月)にわたってウェーブを保つところから名づけられたもので、略してパーマ、パーマメントとも呼ばれる。毛髪をカルセキする方法は、1872年バリの結髪師マルセル・グラトールの作り出した焼きごてによるマルセル・ウェーブが、上流婦人や女優たちに広まっていた。これに対し電熱を利用したウェーブ法は1905年、ドイツ生れの結髪師ネスラー Karl Nessler により、ロンドン

で発表された。彼は名前をフランス風に改め、オックスフォード街に世界で最初の「ネストレーパーマメント・ウェーブ」という看板を出した。第1次世界大戦が始まるとともにアメリカに渡り、断髪(ボブ)にウェーブをかけることを流行させ、24年ころにはアメリカ、イギリスの女性の間で大流行したといわれる。この初期のパーマはホウ(礬)砂を基剤に使い、アイロンで加温するもので、時間もかかり高額であった。

日本に紹介されたのは、1923年神戸で外国人対象の美容院を営んでいた紺谷寿美子がパーマ機を買入れたことに始まるといわれ、30年代の初めには一般に普及した。35年ころから国産品も作られるようになり、しだいにアイロン応用の「洋髪」に代わって流行するようになった。40年には東京でパーマを業とする店が約850軒に及ぶ普及ぶりであった。日中戦争から太平洋戦争にかけては敵性語禁止のため「電髪」と呼ばれるようになり、追放・自粛運動が行われ、機械も多く供出された。当時アメリカではコールド・パーマメント・ウェーブ cold permanent wave の時代に入っており、終戦とともに進駐軍家族によって紹介され、48年ころには国産の薬液が製品化されて、美容・理容業界に大きく広がっていった。

コールド・パーマはイギリスの化学者J. スピークマンが1936年に羊毛の分子構造の研究から、頭髪のケラチン細胞の側鎖を切るコールド・ウェーブの原理を完成したことに始まるといわれる。化学結合の開裂を伴う「変性」を巧みに利用したもので、ロッドに巻いた毛髪に還元剤(チオグリコール酸塩が主剤)の第1液と酸化剤(ブロム酸ナトリウムなどが主剤)の第2液を作用させる二浴式を主流とする。40年代のアメリカでは、家庭で行えるホーム・ウェーブ(パーマ)用の薬品や用具も売り出されている。パーマの発明以降、女性の髪形は活動的で変化のあるものとなり、パーマの技術もさまざまな、くふうと革新が行われてきた。83年には、逆にウェーブを消し直毛を作り出す目的でストレート・パーマと呼ぶ技法が登場したが、毛髪保護や髪形への応用などでは未解決の点が多い。

坂口 茂樹

はまのまさゆき 浜野政隆

1696-1769(元禄9-明和6)

江戸の装剣金工。通称太郎兵衛。乙柳軒、味墨、閑徑、驪風堂、遊壺亭、穩蜂斎、半圭子、子須など多くの号がある。奈良派の名工、利寿寺に師事して業を修め(「奈良利寿」、浜野派を興し、横谷派、奈良派とともに町彫の一大勢力を形成した。作品は縁頭が最も多く、小柄、目貫、鐫などみえる。初期には師利寿の奈良派の作風を示し、小模様で薄肉の穏健なものであったが、後には図柄が大きく高彫で総体に豪放なものとなって、浜野派独自の作風を樹立した。彼自身、奈良三作につぐ名工であるが、一門では2代兼随、矩随がすぐれ、矩随門に直随、その門に岩間政慮が出るなど、

一門、分派ともおおいに栄えた。▶▶▶刀装 原田 一敏

ハマビシ 浜藨 *cultrop*: *puncture vine*: *Tribulus terrestris* L.

ハマビシ科の夏緑性の一年草。形態的には多形な種であるが、茎は有毛で広く地面をはうように広がり、一部は互生し、多くは対生する偶数羽状複葉をつける。宿存する托葉を有する複葉は、長さ1cmあまりの数対の長楕円形の小葉からなる。夏季に葉腋から細い花梗を出し、1個の花をつける。花は杯状で径1~2cmほど、円形形で黄色の5花弁を有する。おしべは10本で、そのうち長い5本は花弁に対生する。めしべは子房上位で5室。果実は径1cmほど、子房の各室が分離し、突起に長短それぞれ2本の鋭いとげをつける。この分離した果実の形がヒシの実に似て海岸に生えるので、ハマビシという。熱帯から温帯にかけての乾燥域に広く分布する。漢方で果実を刺蒺藜または蒺藜子というが、血圧を下げ、潰瘍をなおし、利尿する作用があり、強壮薬とされた。植物体の若い部分は野菜とされ、家畜の飼料とされることもある。堀田 満

ハマビバリ 浜雀雲 *shore lark*: *horned lark*: *Eremophila alpestris*

スズメ目ヒバリ科の鳥。全長17cm。背面は砂色ないし褐色で、額、ほお、胸が黒く、眉斑とのはみは黄色い。繁殖期の雄は頭部に1対の黒い角状の冠羽がある。この鳥はユーラシアではツンドラ地帯と南部の高地で繁殖し、冬季は温帯低地の開けた疎生草地や海岸、積雪のないステップに渡り、小群で越冬する。ヒバリ科の他の種が分布していない北アメリカでは、ツンドラから草地、砂漠まで開けた場所のほとんどすべてに分布を拡大し、さらに南アメリカのコロンビアの高地にまで達している。日本には冬鳥として渡来するが、まれである。地上を歩きながら昆虫や小型の軟体動物、甲殻類、種子を食べ、海岸に打ち上げられた海藻の間で採食しているのを見かけることがある。果はヒバリの巢に似ていて、ツンドラや原野の地面のくぼみにつくり、1腹3~4個の卵を産む。巣づくりと抱卵は主として雌が行い、育雛は雌雄です。近縁種の *E. bilopha* はアフリカのサハラ砂漠の北縁に形成される、植生がまばらな岩れき地や岩石帯の散在する砂漠に分布している。

長谷川 博

ハマビワ 浜杞杷

Litsea japonica (Thunb.) Juss.

沿海地に生育するクスノキ科の常緑小高木で、高さ7mほどになる。葉は互生し、葉身は厚い革質で長さ7~15cm、幅3~5cmの長楕円形、全縁。葉の表は暗緑色で光沢があり、裏には黄褐色の軟毛が密生する。葉柄は2~3.5cm。雌雄異株で、花は淡黄緑色の小花、10月ころ5~6花ずつが、基部を3~5枚の総苞片に包まれて、葉腋から生ずる。花被は先が6裂する。雄花のおしべは9~12本で3~4輪に並び、花被から超出する。液果は長さ15~18mmの楕円球形で、翌年の秋、

緑色～暗灰紫色に熟する。山口県、島根県、四国南西部、九州、琉球、朝鮮南部に分布し、海岸の砂防、防風、防潮用に植えられることもある。葉がややビワに似て、海岸に生えるのでハマビワという。

同属のバリバリノキ(一名アオカゴノキ) *L. acuminata* (Bl.) Kurata はハマビワに似るが、葉がより細く、裏面が少し粉白を帯びる。和名は風にそよぐ葉がたてる音に基づく。 緒方 健

ハマー・プロ

Hammer Film Productions

怪奇映画の代名詞にすらなっているイギリスの映画会社。その製作内容は、怪奇映画のみならず、時代物(コスチューム・プレイ)、SF、戦争映画、推理物など多種多様である。主流は、いわば伝奇物で、それが怪奇・恐怖寄りの方向でヒットしたといえるだろう。1934年にウィリアム・ハインズが、パートナーのエンリック・カレラスとともに、アマチュア俳優当時の芸名ウィル・ハマーから名をとったハマー・プロ(および配給会社のエクスクルーシブ・フィルムズ)を設立した。しかし1937年までに4本を製作するにとどまった。

本格的にスタートしたのは、第2次世界大戦後の47年からで、71年以降、ハマー・プロの社長となったマイケル・カレラスは、エンリック・カレラスの孫である(それ以前は製作、演出などを担当)といったふうに、同族会社のカラーが強い。代表作としては、《原子人間》(1955)に始まる怪奇SF三部作《クォーターマス博士》シリーズ、《フランケンシュタインの逆襲》(1957)に始まる初のカラー版のどぎつさが売物の《フランケンシュタイン》シリーズなどがあるが、このマイナー・プロダクションの名を一躍高からしめたのは、《吸血鬼ドラキュラ》(1958)に始まる《ドラキュラ》シリーズで、ドラキュラ役のクリストファー・リー(1922-)、ファン・ヘルシング博士役のピーター・カッシングの《宿敵コンビ》の対決が見もの、売物となった。ハマーの代表的な監督として、バル・ゲスト、テレンス・フィッシャーらがいる。《凶人ドラキュラ》と《白夜の陰獣》(いずれも1966)で、同じセットを使い回すといったぐあいのローコスト(低予算)製作で、後期になるにつれて、ヌードの女性をモンスターが襲うといったエロ・グロ志向が強くなった。

1970年代後半から経営不振に陥り、事実上の倒産状態となったが、ハマー・プロを離れてコメディアンなどを撮っていた監督のブライアン・ローレンスとプロデューサーのロイ・スケッグスの2人が、ハマー・プロの存続をはかるべく、新スタジオで、1時間13話のTVシリーズ《悪魔の異形》(1980。日本では1984年にフジテレビで放映)を製作した。その後も単発のTV映画を不定期に作っている。 森 卓也

はまへのくろひと 浜辺黒人

1717-90(享保2-寛政2)

江戸中期の狂歌師。本名は斯波孟雅。通称は三河屋半兵衛。江戸本芝2丁目の本屋。芝浜連の頭目として活躍、*天明

狂歌最初の版本《初笑不琢玉》や《狂歌集の下風》を刊行し、また狂歌書にはじめて彫刻料・入花料をとるなど職業的狂歌師の道をひらいた。〈大黒を盗んで福を得手勝手人の心の浅草の市〉(狂歌才蔵集)。 森川 昭

ハマベンケイソウ sea lungwort

oyster plant: *Mertensia maritima* (L.)

S. F. Gray ssp. *asiatica* Takeda

東北および北海道の海岸の砂地に生えるムラサキ科の多年草。全体が多肉質で、ベンケイソウ科の植物に似ている。茎は砂地に倒れて長さ1mに達し、よく枝を分かち。葉は卵形で長さ3~7cm、幅2~5cm。花は7~8月に、まばらなカタツムリ状花序につく。花冠は鐘形で長さ8~12mm、青紫色で美しい。やや下向きに開き、先端は5裂する。萼筒は5深裂し、裂片は鋭くとがる。子房は4深裂し、花後四つの分果となる。分果は肉質。東北アジア、サハリン、千島列島、アレウト列島の海岸に広く分布する。

ハマベンケイソウ属 *Mertensia* (英名 blue bell) は、北半球の亜寒帯・寒帯域で分化している一群で約30種があり、とくに北アメリカ大陸の西側に多くの種がある。海岸生で多肉質というハマベンケイソウの性質は、属の中では例外的なものである。日本ではほかに北海道の高山にエゾリソウ *M. pterocarpa* (Turcz.) Tatew. et Ohwi var. *jezoensis* Tatew. がみられる。 矢原 徹一

ハマボウ

Hibiscus hamabo Sieb. et Zucc.

日本の本州南部、四国、九州、琉球原産のアオイ科の低木で、ときに観賞用に庭園に植えられるほか、防潮林とされる。高さ3~5mになり、若枝、若葉に絹毛を有する。葉は円形から心臟形で、フヨウよりも小さく、先端はとがる。花は直径7~10cm、黄色で7~8月に咲く。通常、葉腋に単生するが、ときに枝の先に群がって咲くことがある。小苞片は8~10枚、萼は途中で折れて5片に開く。果実は楕円形で先端はとがる。種子は腎臓形で無毛。強い硬実性の種子に傷をつけて、春にまく。開花には2~3年を要する。山間部や関東以北では戸外では越冬できない。

オオハマボウ *H. tiliaceus* L. (英名 coast cotton tree, yellow mallow tree) は熱帯性で、本種とは分布域や性質を異にする。両種とも強い樹皮の繊維をロープ、敷物、織物等に利用する。 立花 吉茂

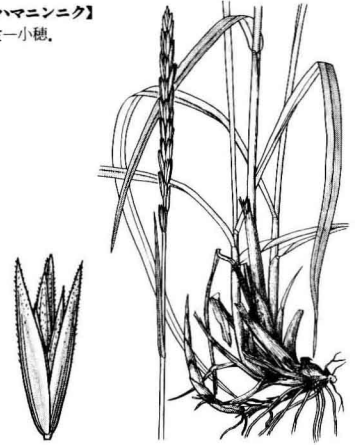
ハマボウフウ 浜防風

Glehnia littoralis Fr. Schm.

海岸の砂浜に生えるセリ科の多年草。根は太くて長く、大きい株では1m以上に達する。葉は根生して、1~2回3出羽状複葉、小羽片は倒卵状楕円形、質が厚く表面は光沢がある。夏に高さ10~20cmの複散形花序を出し、白い5弁の小さい花を多数つける。花序や花茎には密に白い立毛がある。果実は倒卵形で肥厚し、長さ6~8mm、背面には太い稜があって密に毛があり、熟すとコルク質になって分離し、砂上に散乱する。日本全土、朝

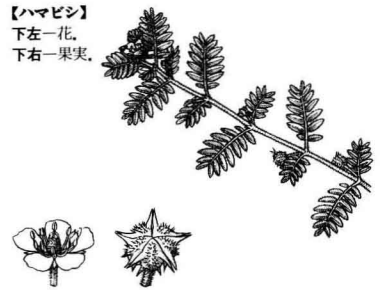
【ハマニシキク】

左一小樹、

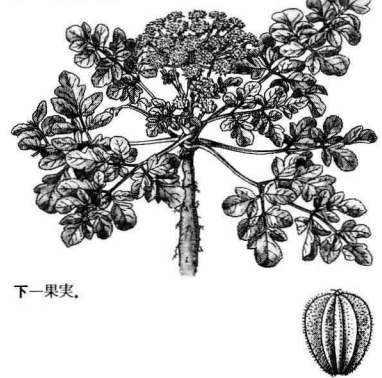


【ハマビシ】

下左一花、
下右一果実、



【ハマボウフウ】



鮮、中国、サハリン、ウスリー地方からオホーツク海沿岸に分布する。春に若芽をつんで刺身のつまなどに用い、生で食べる。市場などで販売され、一般に料理にそえて用いられるところから、八百屋防風といわれることもある。根を北沙参(北沙参)といい、咳止めなどに使う。 村田 源

ハマボックス 浜松子

Lysimachia mauritiana Lam.

海岸の砂地または岩場に生えるやや多肉のサクラソウ科の越年草。和名は、花穂の形を松子に見たてたのであろう。植物体は無毛。茎は基部で分枝し、高さ10~40cm、稜がある。葉は互生し、やや厚く、つやがあり、倒披針形で長さ2~6cm、幅1~2cm。葉肉内に黒色の腺点がある。5~6月、茎の先端に多数の花を密に総状、または円錐状につける。萼

は緑色で5裂する。花冠は白色で深く5裂し、直径1cm前後。おしべは5本。果実は直径約5mmの球形の蒴果³。先端が軽く縦に割れる。日本全土(北海道一琉球)、中国、東南アジア、インド、太平洋諸島に分布する。ハイハマボッサ *Samolus parviflorus* Rafin. は海岸近くの湿地に生えるが別属の植物で、茎は細く、葉は倒卵形、まばらな総状花序をつける。子房は中位、5本のおしべのほかには5本の仮雄蕊⁴がある点⁵が、重要な特徴である。

井上 健

はまます 浜益[村]

北海道西部、石狩支庁浜益郡の村。人口3977(1980)。増毛山地に囲まれ、浜益川などの小河川が石狩湾に注ぐ。集落は各河口のわずかな平地に点在する。中心の茂生¹は1706年(宝永3)松前藩が益毛²市場所を開いた地。かつてはニシンの豊富な漁場として知られたが、現在は米作とサケ、カレイなどの漁獲が基幹産業となっている。北部の山地および海岸線の一部は暑寒別³道立自然公園に含まれ、雄冬⁴岬周辺の海岸がその中心である。1981年、海岸沿いに国道231号線が開通した。

奥平 忠志

はままつ 浜松[市]

静岡県南西部の中心都市。1911年市制。人口49万0827(1980)。市域の大部分は浜松平野の南西部および三方原台地、海岸砂丘地からなり、東は天竜川、西は浜名湖を境とする。1871年(明治4)廃藩置県により、一時浜松県の県庁所在地になったが、5年後に浜松県は廃止され静岡県に合併された。綿織物を主とする繊維、ピアノやオルガンなどの楽器、オートバイと自動車の輸送用機械が三大工業である。藩政末期に農家の副業として北部で盛んであった綿織物業は、1889年の東海道本線浜松駅開業後は駅周辺に中心が移り、工場制工業に転換、全国有数の綿織物産地に成長するとともに関連の繊維・染色工業の発達をみた。楽器工業は、明治中期に*日本楽器製造の創設者山葉寅楠が当地でオルガンを製作したことにはじまるが、伝統的な木工技術、天竜川上流の木材生産などを背景に発達し、現在では全国のピアノ生産量の9割を占めるに至っている。また、浜松市の製造品出荷額の3割強を占めるオートバイ、自動車などの輸送用機械工業は、本田技研、鈴木自動車、ヤマハ発動機(磐田市)の三大メーカーを中心に傘下の部品工場が多数分布している。農業はメロンなどの施設園芸、菊などの花卉類、セロリ・レタスなどの野菜類の生産が盛んで、施設園芸団地も建設されている。東海道新幹線、東海道本線、東名高速道路などが通り、国鉄浜松駅から西鹿島(天竜市)まで遠州鉄道が延びている。*蜆塚¹・貝塚、*伊場遺跡などの史跡のほか、観光地としては浜名湖岸の*館山温泉、フラワーパーク、浜松祭の際に大たこあげが行

われる中田島砂丘がある。また、当地方に広く行われている習俗として盆に行われる遠州大念仏も有名である。塩川亮[浜松城下] 遠江国敷知郡の城下町、宿駅。平安期の《和名抄》に、敷智郡内の郷として浜松(浜津)があり、中世ではく浜松荘<浜松御厨>などもみえるが、戦国期までは一般に*引間²としてあらわれた。1570年(元龜1)徳川家康が居城を岡崎から当地に移し、く浜松>と改めてからその名が頻出するようになる。90年(天正18)家康の関東転封後、堀尾吉晴が18万石を領して在城、さらに1601年(慶長6)松平(桜井)忠頼が5万石で入封した。浜松城下の本格的町割り³は寛永期(1624-44)の高力忠房の時に始まり、武家屋敷と町人地が区別され、町人地は伝馬・人足役を負担する御役町と、職人居屋敷を中心とする無役町とから構成された。さらに17世紀後半の太田氏、青山氏の時期にその整備が進み、82年(天和2)には青山氏が町検地を実施し、町絵図を作成した。く浜松宿諸職記録>によると、この検地で確定した無役町内庄屋屋敷は1963坪余、諸職人居屋敷は1万7009坪余、職人居屋敷には大工、鍛冶、木挽、桶屋、紺屋、畳師、瓦師、塗師、絵師、傘屋、大鋸、櫓物師、油屋、白銀師、仕立物師があった。

近世宿駅としては、1601年幕府により設定された。品川宿より29番目に当たり、《宿村大概帳》によると宿内町並み東西23町15間余、1843年(天保14)の改めでは、宿内人口5964人、惣家数1622軒(うち本陣6、旅籠屋94軒)であった。当宿の助郷は1637年(寛永14)にはじめて指定され、94年(元禄7)の助郷改革で定助郷16ヶ村、大助郷44ヶ村となったが、1725年(享保10)には大助郷も含めて定助郷とされた。この地方の主要産業は、とくに近世後期に綿作が進み、木綿織物が発達した。なお国学も盛んで、幕末維新期には神官層を中心に遠州報国隊も結成され、東征軍に参加した。▶▶浜松藩 本多隆成

はままつちゅうなごんものがたり 浜松中納言物語

平安後期の物語。作者は*菅原孝標女¹か。原名はく御津の浜松>で5巻現存、首巻散逸。故宮の息中納言は、義父の大将が式部卿宮に嫁がせると約束していた大将の娘大君と契り、大将を困惑させる。折から中納言は亡父が唐の皇子に転生していると伝聞し、夢にも見て渡唐する。そこで転生の皇子とその母后に会って、母后に心ひかれ、のち、はからずも契り男子が生まれる。この母后は遣日使と日本の上野宮との間の子であった。3年ののち、中納言は男子を連れて帰国して乳母に預ける。一方、渡唐の間に妻の大君は中納言の女子を生み尼となっていた。中納言は唐后に託された手紙を持って後の母尼を吉野に訪ねる。そこで中納言は後の異父妹吉野姫を託され、自分のものに引き取ったが、好色の式部卿宮に盗まれる。悲しむ中納言の夢に唐后が現れ、自分は中納言の願いにひかれて転生して吉野姫の腹に宿ったと告げる。吉野姫は

式部卿宮の子をはらんだ。中納言は夢を思い合わせて悲喜こもごもの思いだった。日本と唐を舞台に夢と転生をつづる浪漫性の色濃い物語で、三島由紀夫の小説《*豊饒の海》にも影響を与えた。松尾聰 **はままつはん 浜松藩**

遠江国(静岡県)敷知郡浜松に藩庁を置いた譜代中藩。東海地方の要地であり、また徳川家康ゆかりの城として、藩主には代々譜代大名が配置され、しかも諸藩中最も多数の老中を出した。1590年(天正18)*堀尾吉晴が浜松城で18万石を領したが、幕藩体制下の藩としては1601年(慶長6)松平(桜井)忠頼が5万石で入封して始まる。その後徳川頼宣の付家老水野重央を経て、19年(元和5)高力忠房が3万石で入封、25年(寛永2)1500石、34年5000石加増。38年に転封したが、この間に城下町の本格的な町割りが行われ、領内検地や新田開発も進んだ。以後松平(大給)氏、太田氏、青山氏、松平(本庄)氏、松平(大河内)氏、松平(本庄)氏、井上氏と転封が激しく、1817年(文化14)には*水野忠邦が肥前唐津より6万石で入封した。この間、藩制や城下町の整備、近世村落の確立の上で大きな影響を与えたのは、17世紀後半の太田・青山両氏の時代であった。水野忠邦は老中首座として天保改革を断行したが、領内においても勤儉と節約を説き、農業を奨励し、義倉、社倉と称する貯穀庫を設置して凶年に備え、農学者*大蔵永常を招聘²した。また人材の登用や藩制機構の合理化を進めるなど藩政改革を行い、さらに異国船に対する海防体制を整備すべく軍事改革に着手し、農兵隊を組織した。しかし他方では、これらの改革や幕閣における政治活動のため膨大な資金を必要とし、領民への過酷な収奪が行われた。そのため領民の不満が爆発し、1845年(弘化2)忠邦が失脚してその子忠経(のち忠精)が山形へ転封し、井上正春が6万石で入封したが、その翌年百姓一揆(打毀)が起こった。井上氏の下で引き続き藩政改革が続けられたが、正直の代に明治維新を迎え、68年(明治1)上総鶴舞へ転封を命ぜられ、翌年移封した。浜松藩は廃藩となり、駿遠両国は徳川家達³の駿河府中藩(のち静岡藩)に組み込まれた。

本多隆成

はまむら 浜村[温泉] ▶▶気高(けたか) [町] はまや 破魔矢

神社で正月に縁起物として授与している矢。もとくはま(両弓はま矢)といって、宮廷や民間において、正月に射礼¹として弓矢を射たときに使われたことに由来する。くはま>とは《貞丈雑記》によると、大和国(奈良県)吉野郡地方や土佐国(高知県)地方で、正月に子どもが弓を射るときの的の穴をいうのだという。すなわち、的は縄を巻いて直径1尺(30cm)ほどの輪をつくり、その中に鍋敷の形をした、さしわたし2〜3寸(6〜9cm)の穴をあけ、これをくはま>と称し、このくはま>を射るのがくはま弓はま矢>であるという。これが原義であろう。のちにくはま>は破魔の字をあて、悪魔を破る矢のごとく解され